

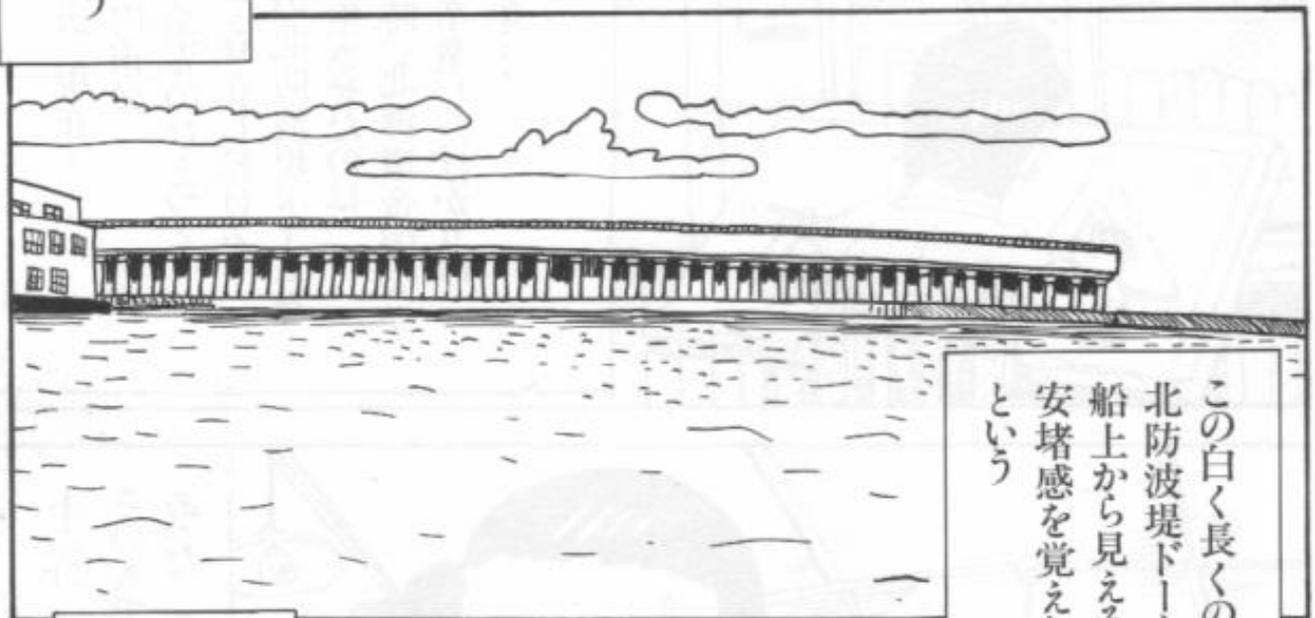
北海道
稚内市



北防波堤ドーム



かつて
サハリンから
この地に向かう
人々は

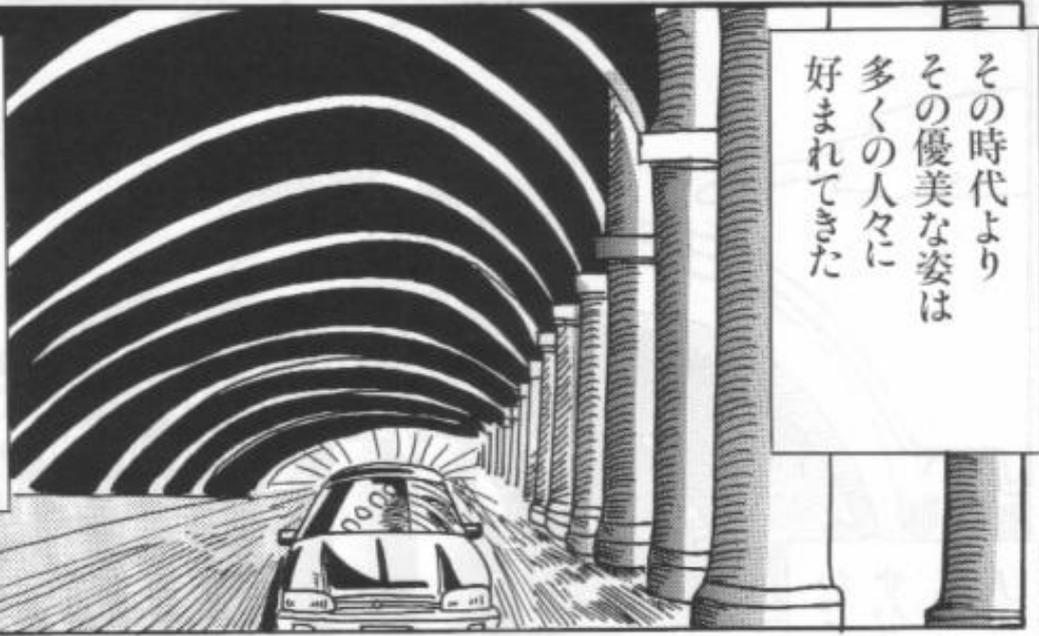


この白く長くのびる
北防波堤ドームが
船上から見えると
安堵感を覚えた
という

「ああ
稚内へ帰って
来たのだ」……と

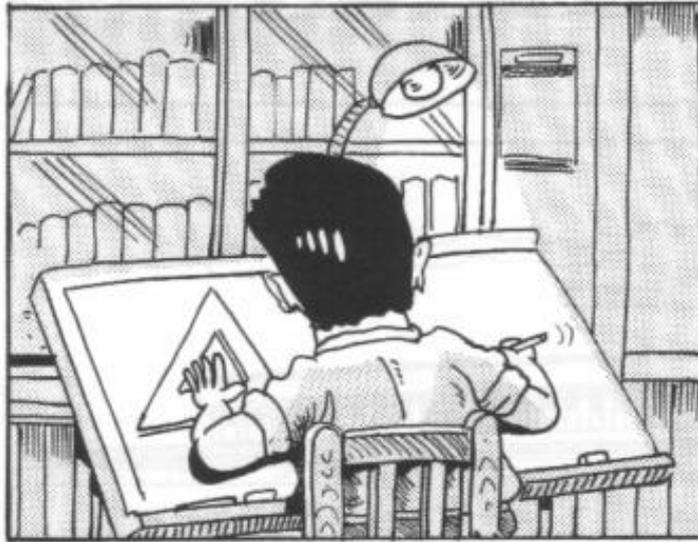


その時代より
その優美な姿は
多くの人々に
好まれてきた

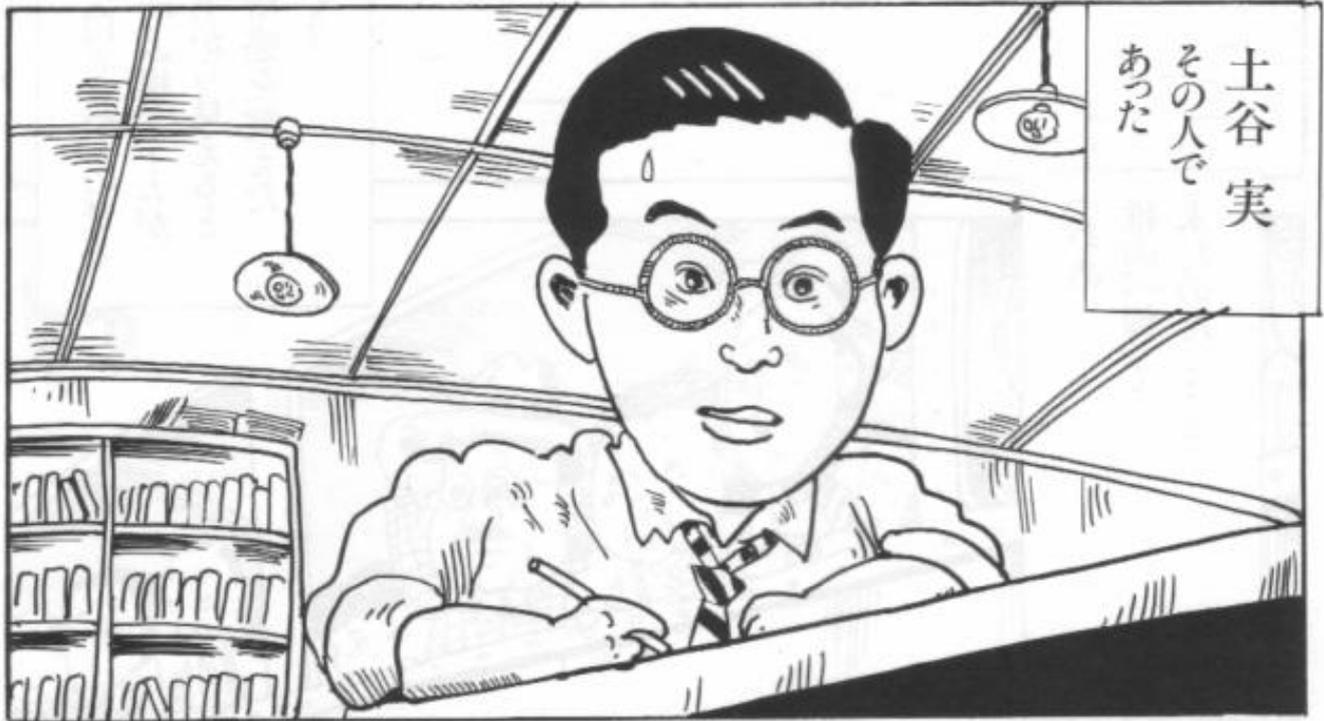


そして現在も
イベントやCM等の
背景として
数々の場面を
演出し続けている

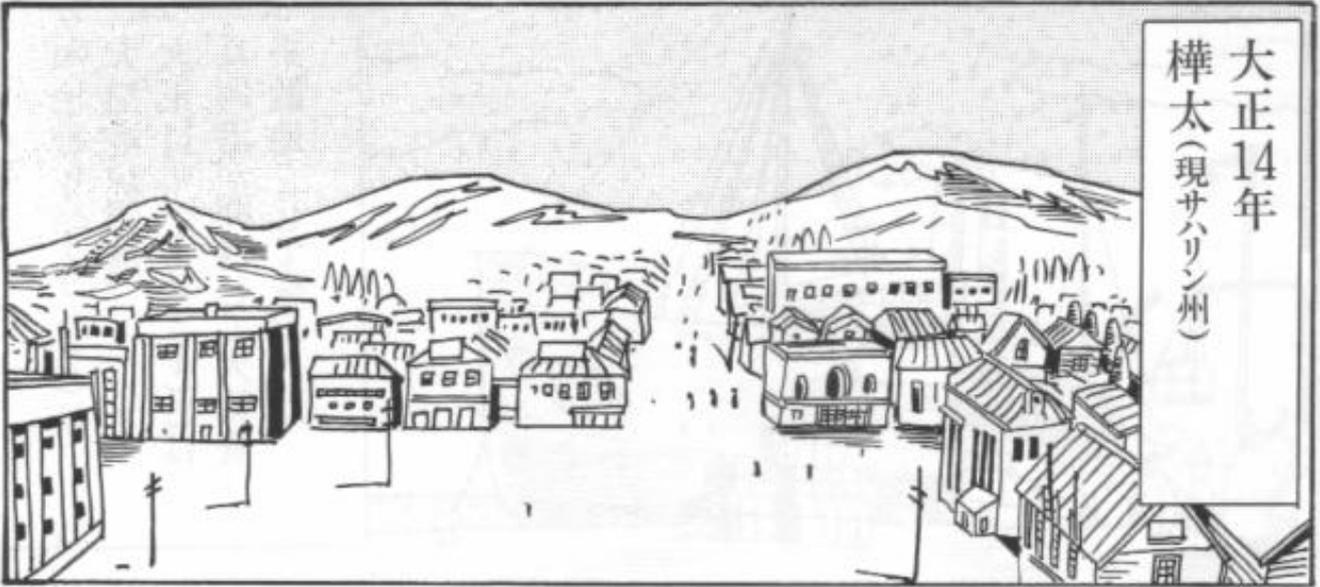
過去、現在…
稚内市の
シンボルのひとつと
して存在し続ける
この北防波堤ドームを
誕生させたのは
当時、北海道帝国大学
を卒業したばかりの
青年…



土谷 実
その人で
あった



大正14年
樺太(現サハリン州)



樺太(サハリン州)は
明治8年(1875)の
千島樺太交換条約に
よりロシア領となつて
いたが...

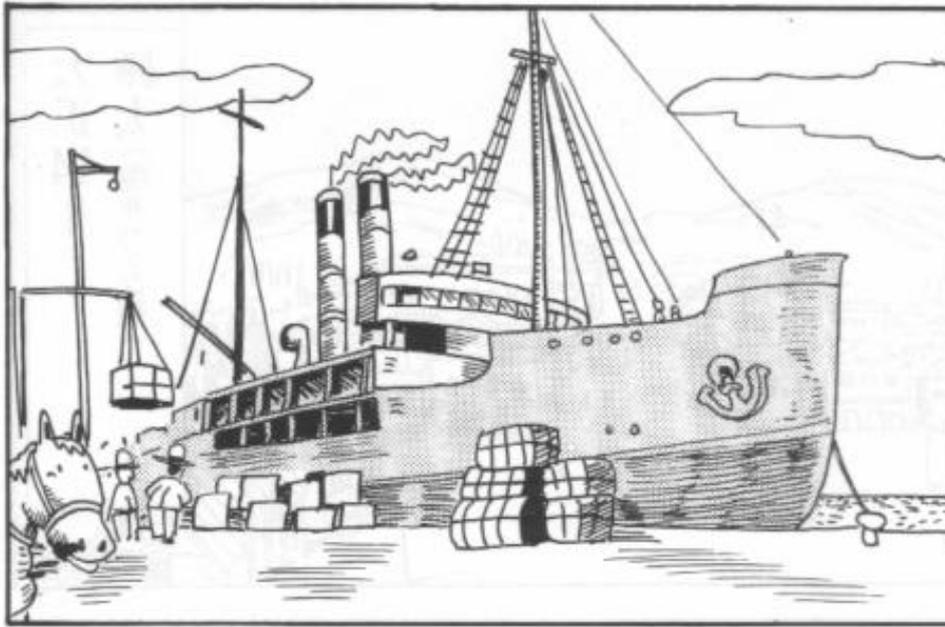
明治38年(1905)
日露戦争によつて
南半分は日本領と
なつた
明治40年(1907)
樺太庁が置かれ
開拓が進んだ



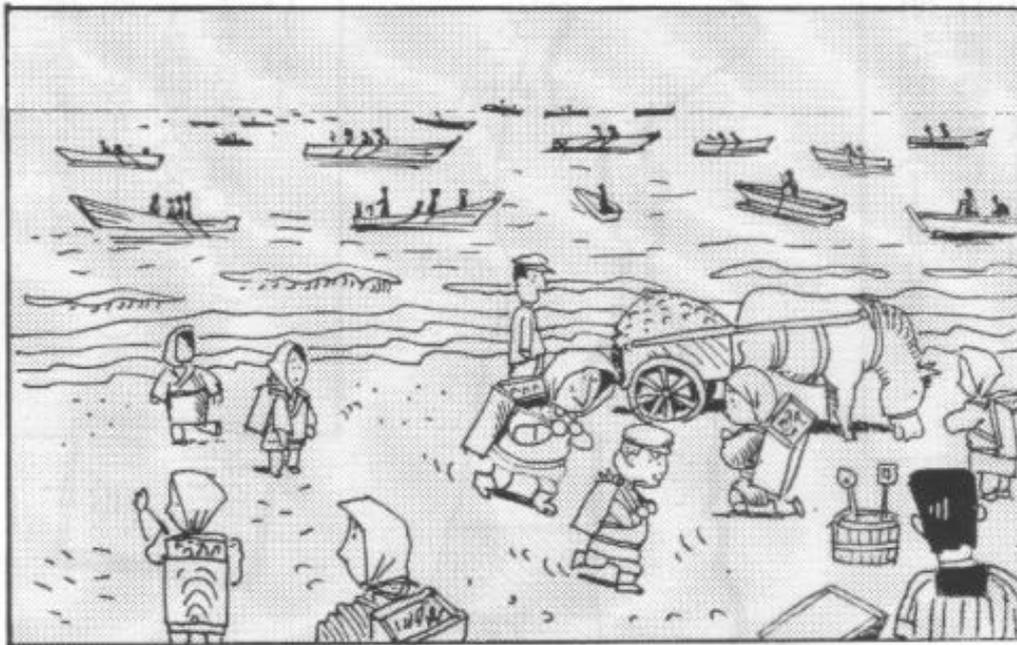
その結果、大正2年
(1912)には
4万5千人
であった人口が昭和元年
(1925)には20万人に
増加し...

大半は日本人であつたが、
朝鮮人、アイヌ人、
オロコ人、ロシア人など
も住んでいた

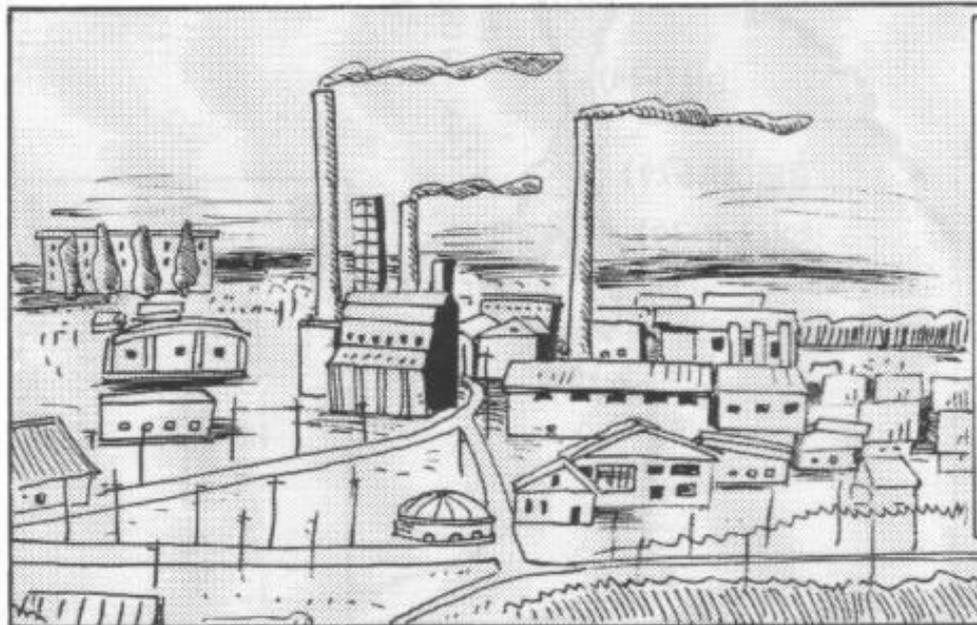




明治42年(1902)に
大泊港が開港。
大正11年(1921)には
真岡港が開港して大物資
集散地として賑っていた

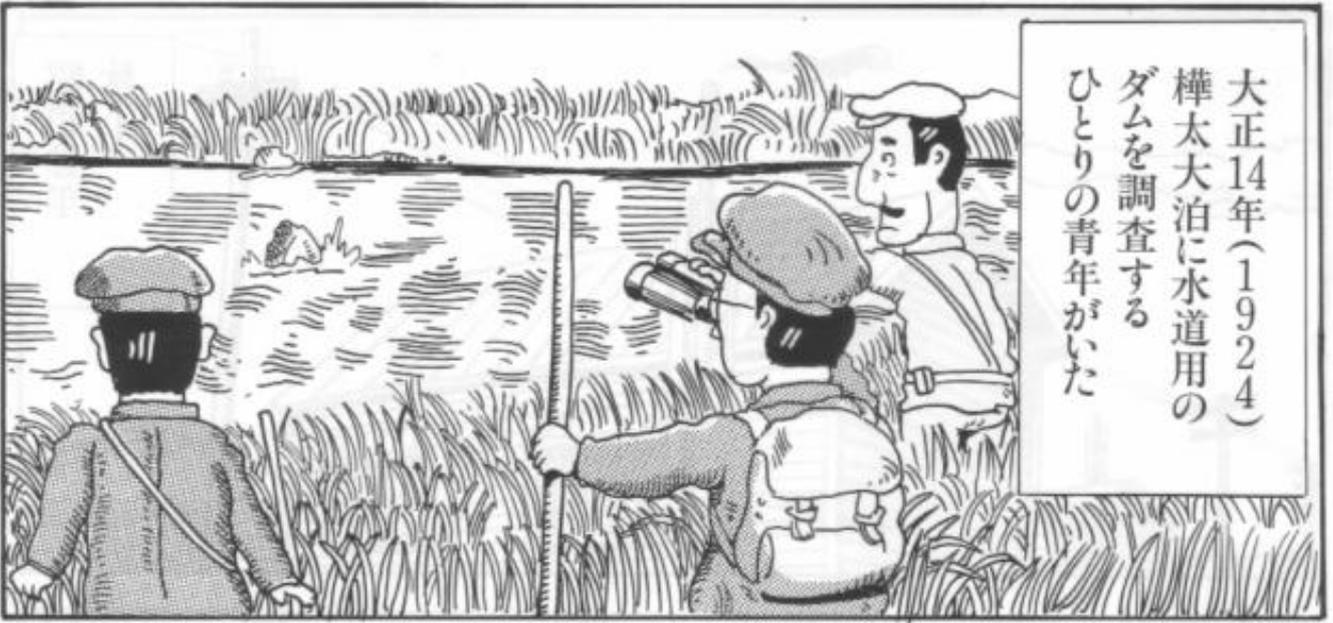


森林、石炭、石油の
地下資源、沿岸の
水産資源に恵まれて
おり……



樺太製紙工場が
できて以来、外国貿易が
増加したが、大部分は本州、
北海道との国内貿易
だった

大正14年(1924)
樺太大泊に水道用の
ダムを調査する
ひとりの青年がいた

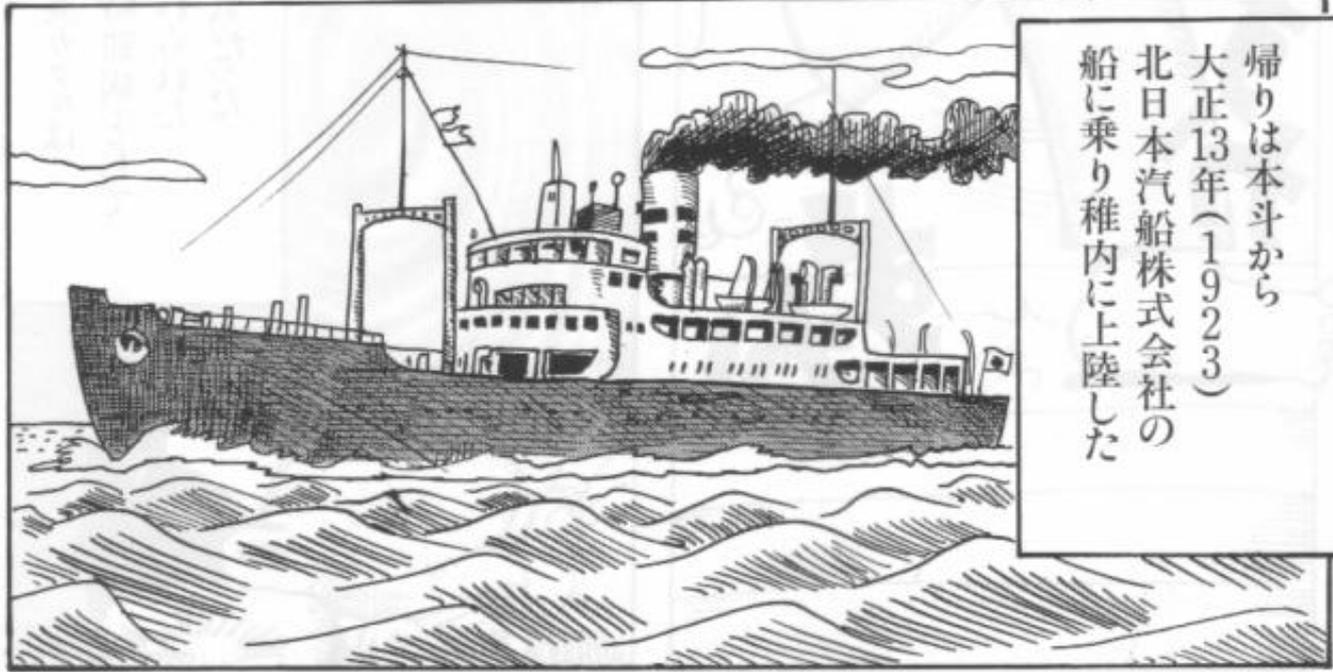


北海道帝国大学
工学部一期生
土谷 実

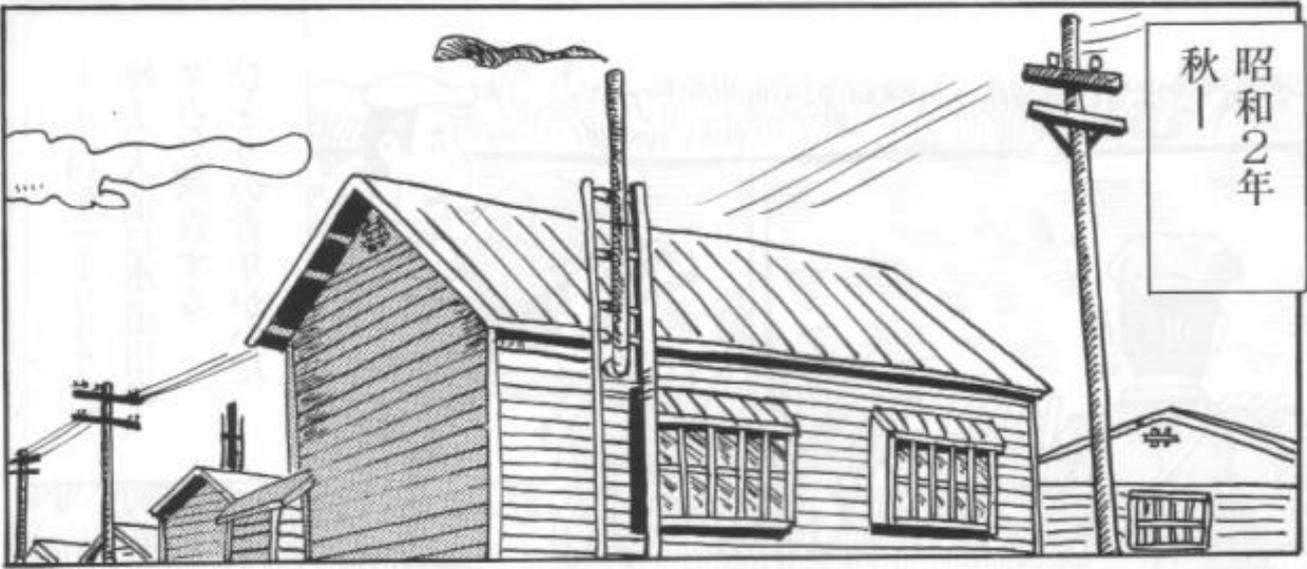


彼は
大正12年(1922)に
開設した稚泊航路で
大泊に渡り、約1カ月の
実習を行っていた

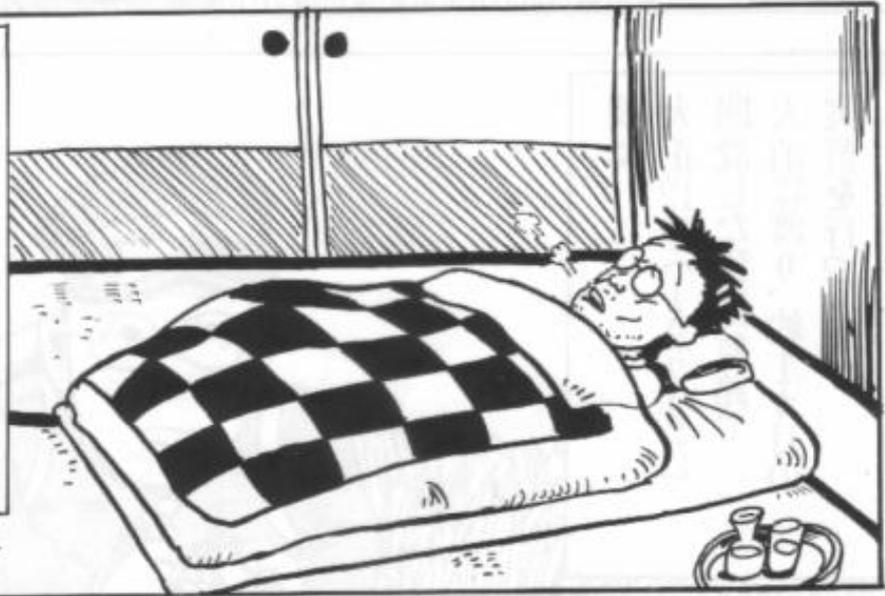
帰りは本斗から
大正13年(1923)
北日本汽船株式会社の
船に乗り稚内に上陸した



昭和2年
秋



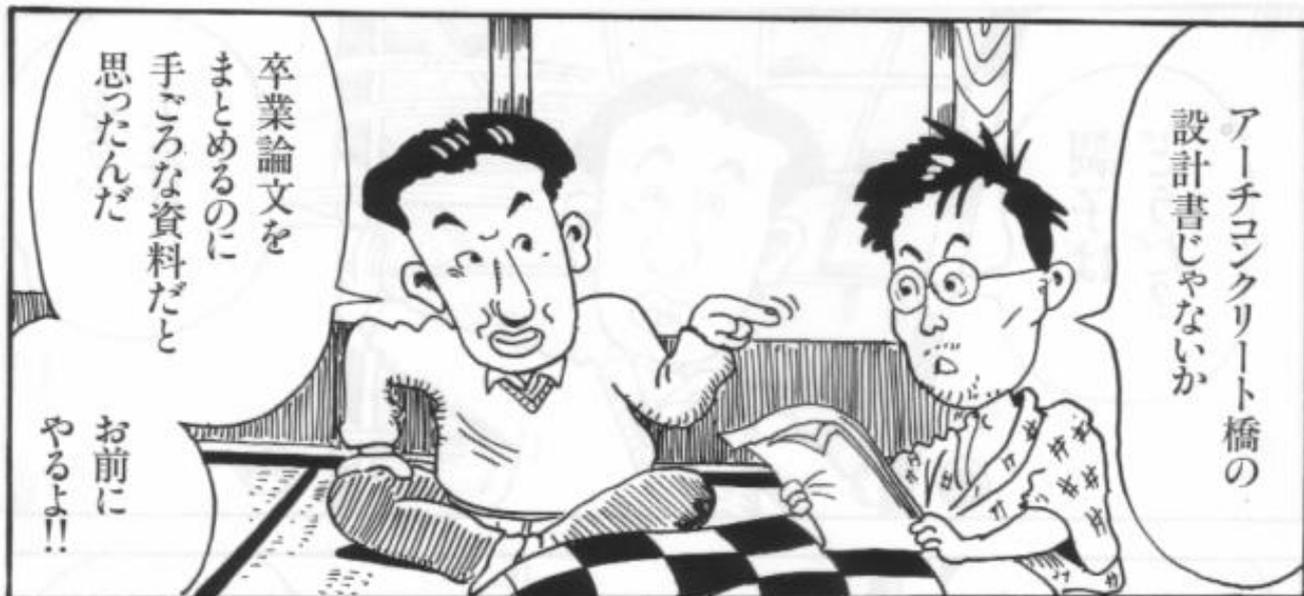
北海道へ帰った
土谷は
卒業を目前にし
肺炎カタルにかかり
自宅療養を余儀
なくされる



肺炎カタルは
当時難病として
恐れられた
病気だった



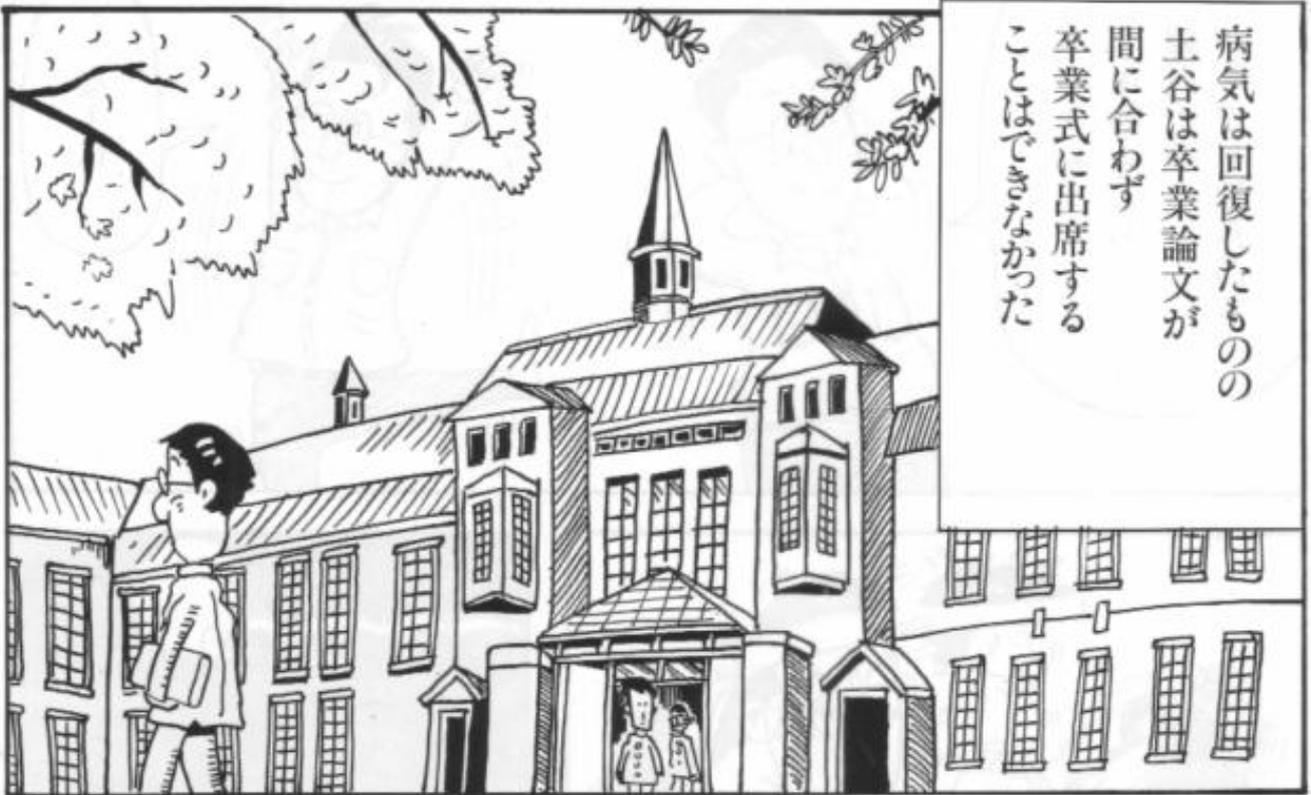






昭和3年
3月...

ああ

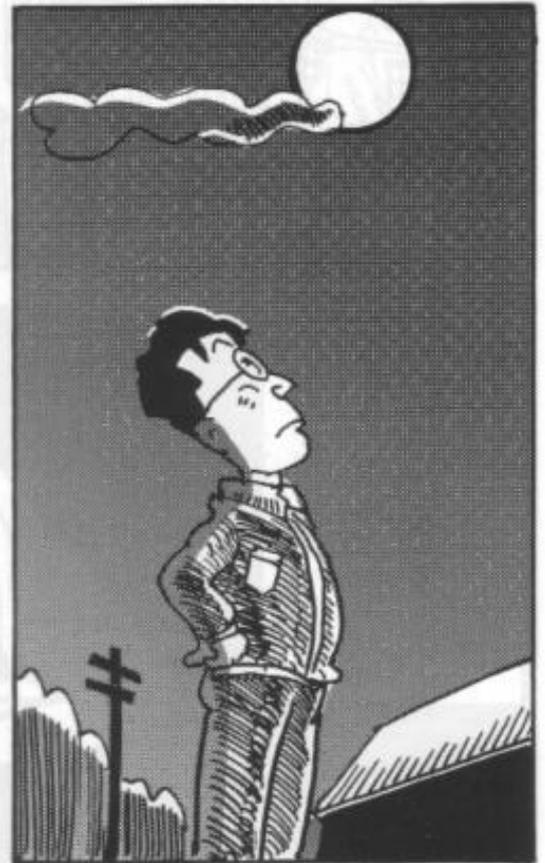


病気は回復したものの
土谷は卒業論文が
間に合わず
卒業式に出席する
ことはできなかった

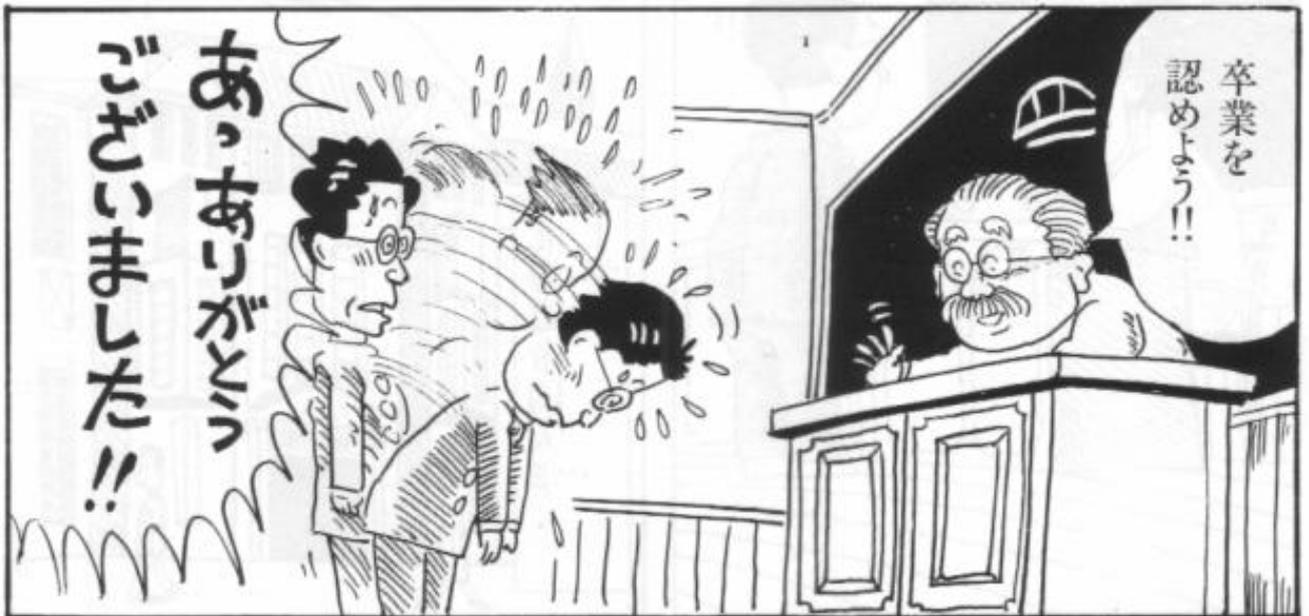


土谷だけが
一人、大学に
取り残されて
しまう

同期生が皆
一足先に社会へ
旅立っていく中









君の就職先だが
北海道庁の
港湾課の伊藤さんに
お願いしておいたよ

伊藤…
伊藤長右衛門
先生にで…
どうですか!?

えっ



遅れはしたが
これで君も
帝国大学
工学部の
第一期卒業生
だ!!

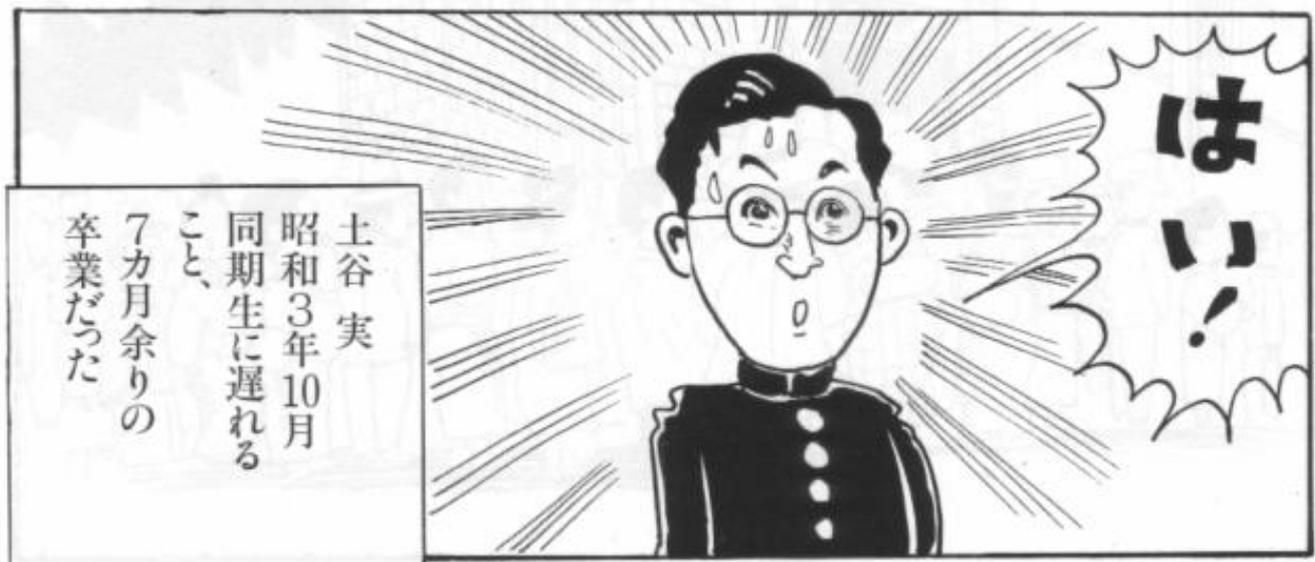
社会に出、その名に
恥じぬよう、立派な
活躍をしてくれたまえ



不服でも
あるのかね?

いいえ
そのような
つもりで言った
のではありません!

あまりにも
光栄な事だった
ので…



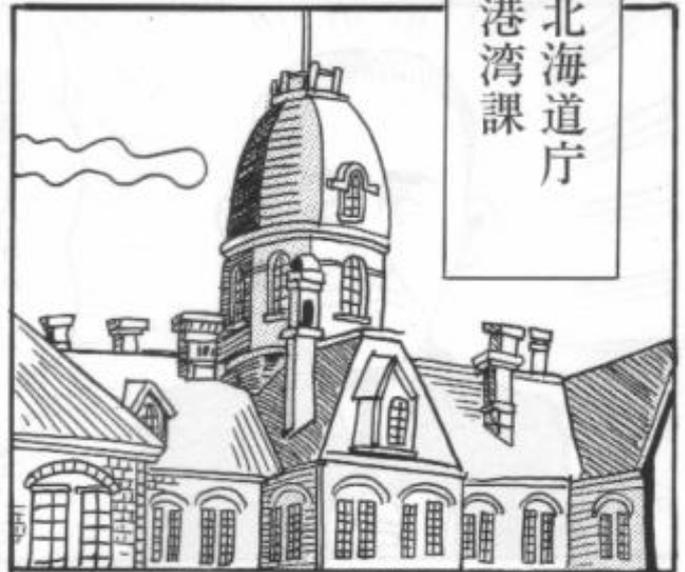
はい!

土谷 実
昭和3年10月
同期生に遅れる
こと、
7カ月余りの
卒業だった

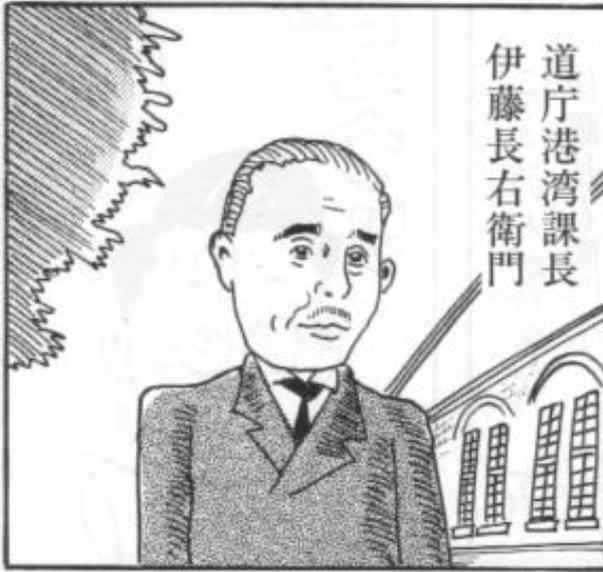
そのころ、日本は
第一次大戦後の不況、
関東大震災、
金融恐慌と続く
経済の混乱や政治の
混乱など内外ともに
多難な時代に入つて
いった。



北海道庁
港湾課



道庁港湾課長
伊藤長右衛門



昭和3年10月
初代の小樽築港事務所長でもあり、東京帝国大学名誉教授であった
広井勇博士が亡く
なった



広井博士は東京に住んだ後も北海道の港湾について指導を
続けていた

東大の最初の弟子であり、彼に推されて
北海道庁技師となった
伊藤長右衛門は
その意志を継ぎ、...

北海道庁
港湾課



北海道の港湾建設を
指導、統括していた。
口数少なく剛胆、重々
な
雰囲気を持つ人物



こ……この人が有名な
伊藤長右衛門……
港湾の大家か



ゴクワリ



うむ

よう……よろしく
お願いいたし
ます!!



こ……このたび
北海道帝国大学
工学部を卒業
いたしました
土谷実と
申します!

コクワリ

コクワリ



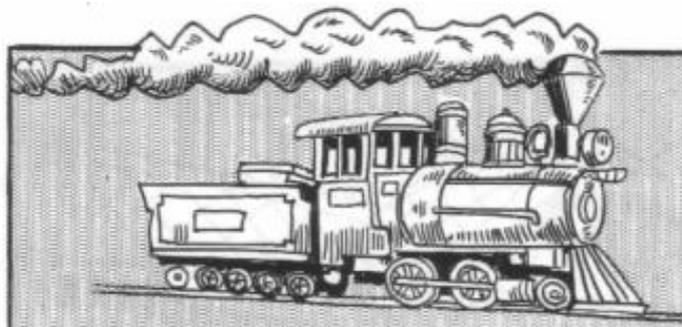
ビビッ

はっ!!



待っておった

さうぞく
稚内に行って
くれ!



明治13年(1880)
 幌内〜小樽手宮間に
 開通された鉄道は
 大正末には稚内、根室に
 到達し、大量の人と
 貨物の輸送が可能になり
 さらに開拓が進んだ

鉄道の発達

(北海道の歴史より)

- 明治15年まで
- 明治のおわりまで
- - - 大正時代

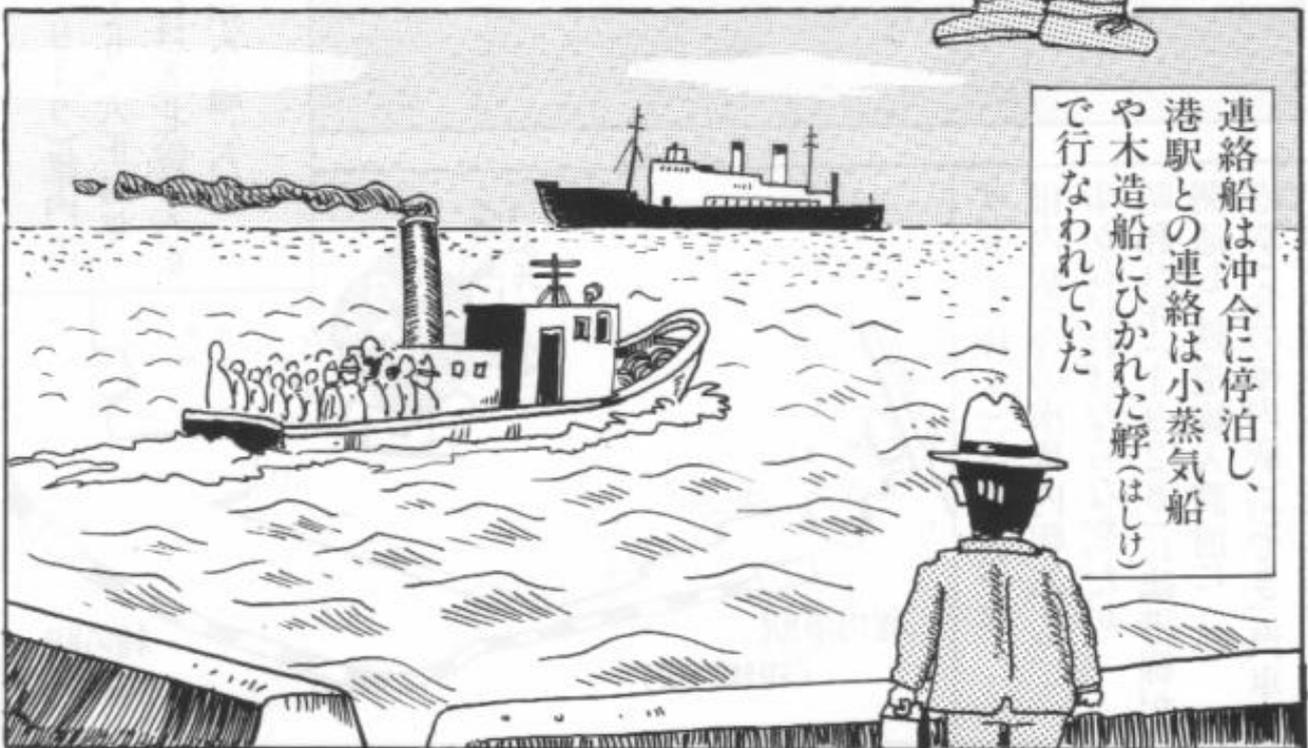
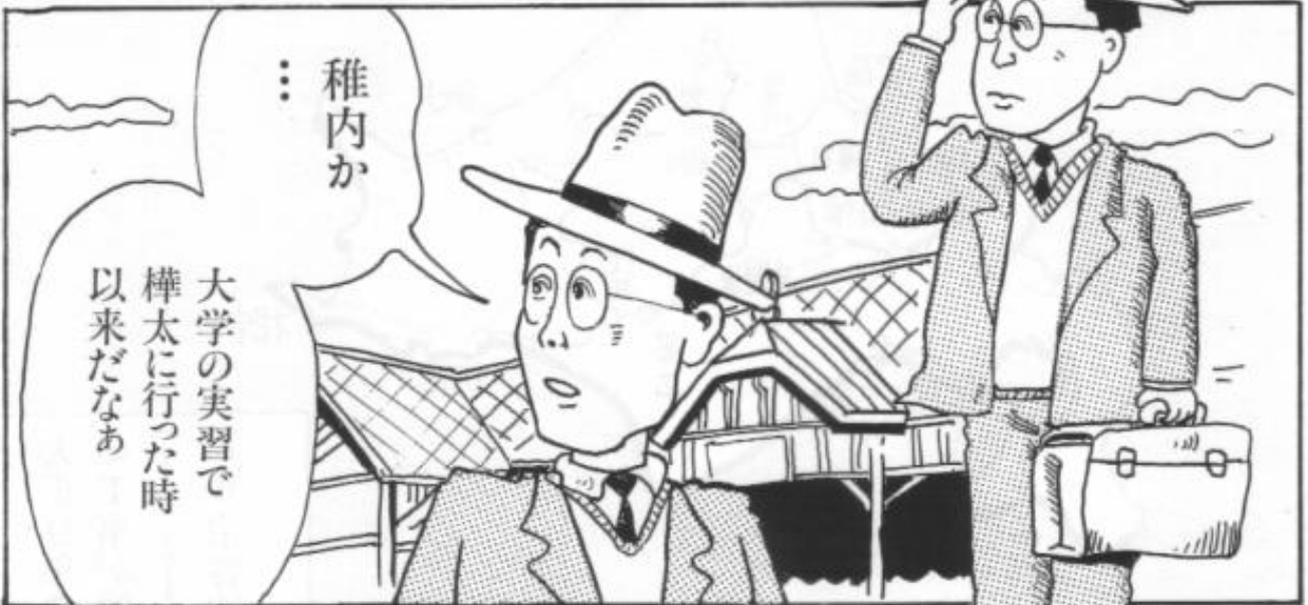


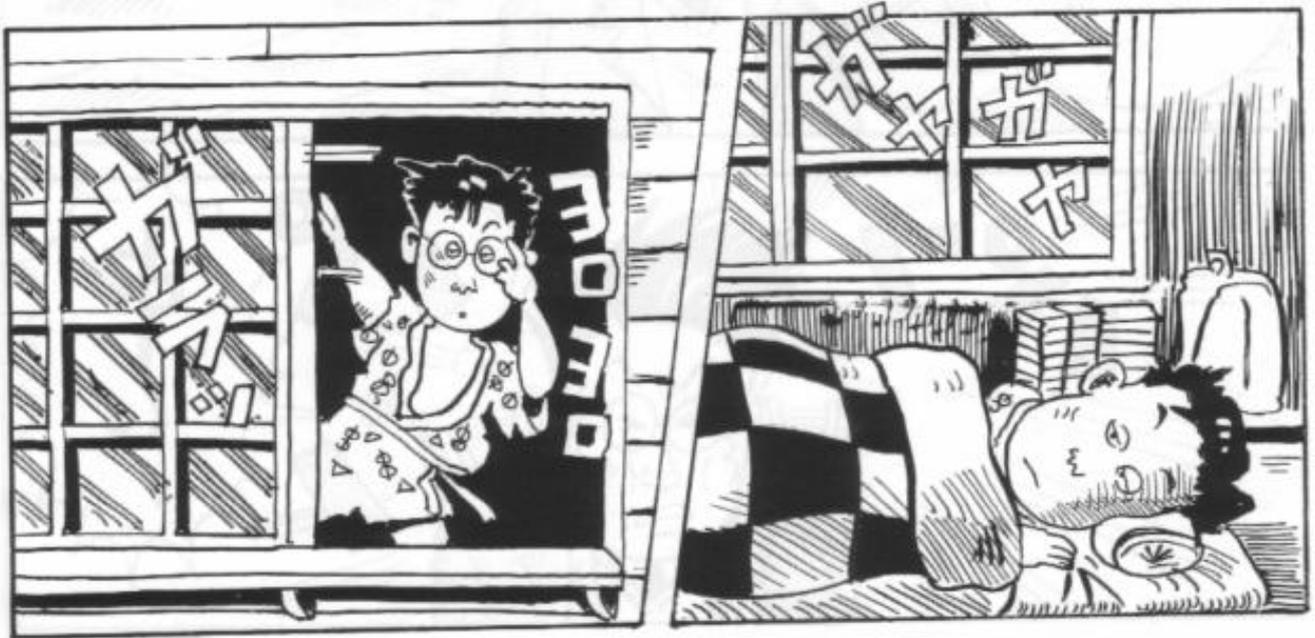
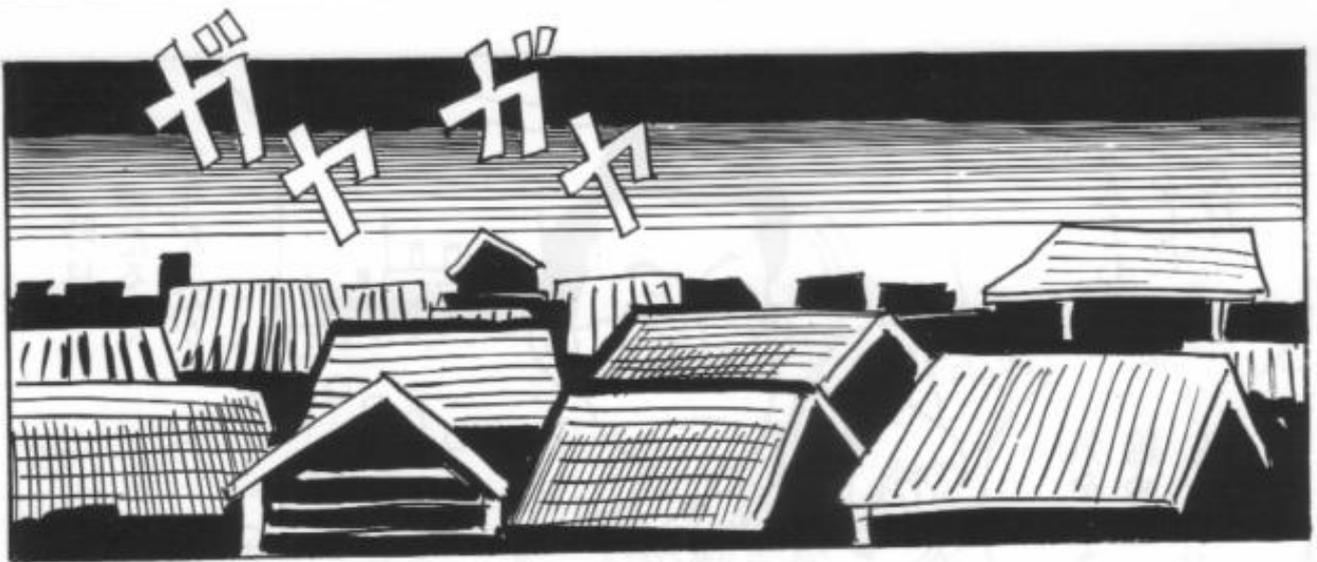
大正9年(1919)稚内港
 の工事が始まり、大正11年
 (1921)には天北線、大正
 15年宗谷線が全通した。

サハリン(樺太)に渡る人々は
 稚内駅(今の南稚内駅)から
 歩かなければならなかったが、
 昭和3年(1928)に臨港線が
 開通し、鉄道線入潤前に
 港駅(今の稚内駅)ができ、汽車
 で港まで行けるようになった



稚内港駅





700戸が焼けたという
 稚内大火である。
 火は宿舎近くまで
 迫るが、急に風向きが
 変わり、奇跡的に延焼
 をまぬがれる

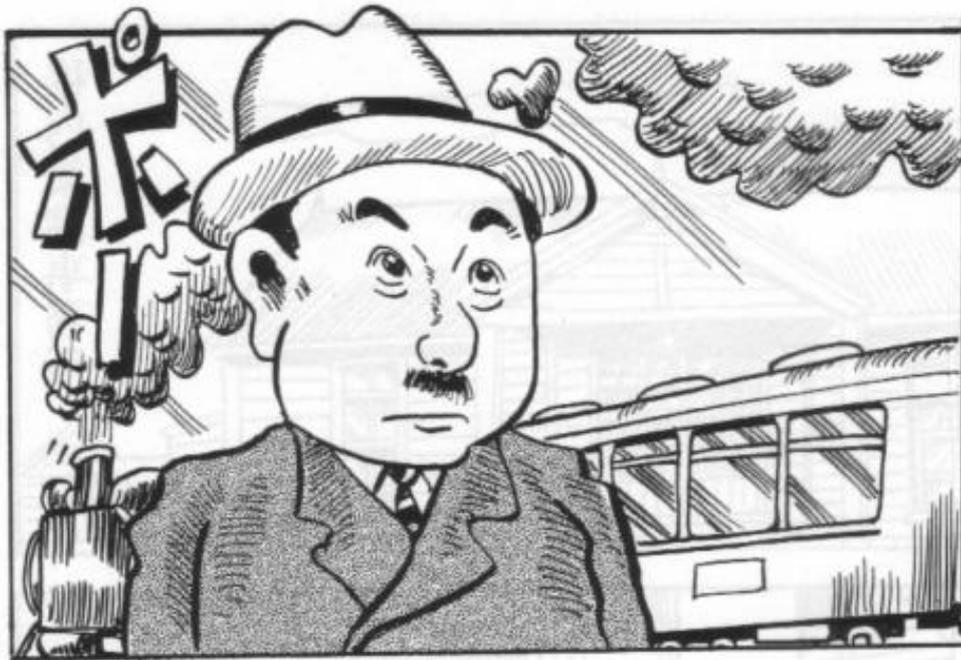






それから
一ヶ月程して
網走築港事務所長の
平尾俊雄が
稚内築港事務所長を
兼務することになり
稚内をおとすれる





平尾俊雄
大正5年東京大学を
卒業。アイデアと
決断に富む性格。
土谷の12歳年上



…しかし
ひどいもんだ

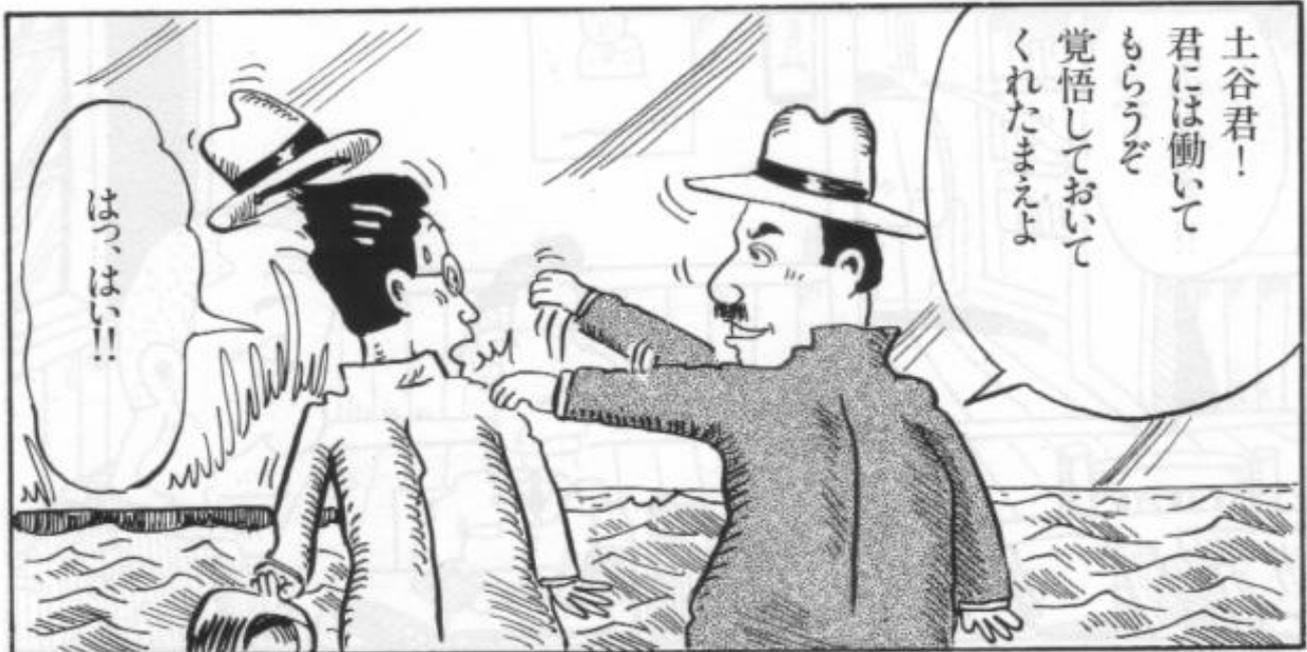
早く体制を
立て直して
仕事を始めよう



平尾所長
お待ちいたして
おりました
土谷と申します

うん
話は聞いて
おる

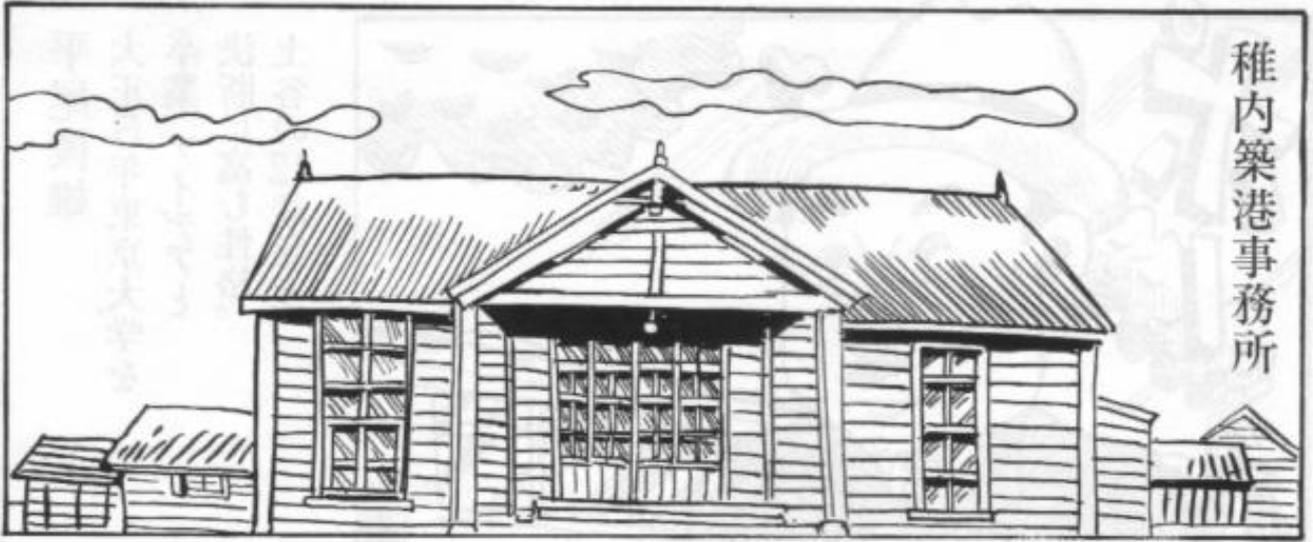
留守役
ご苦労だったな



土谷君！
君には働いて
もらうぞ
覚悟しておいて
くれたまえよ

はっはっ！！

稚内築港事務所





ドンヨリ

火事の影響などがあつて役所の空気はすこぶる悪かつた



所員全員が砂を噛むような雰囲気の中で仕事をしている

それは当然土谷にとつても愉快な職場とは到底言い難いものであつた

昭和6年1月
事務所長会議



……ところで
どうかね？
平尾所長
稚内の風波は

この二、二年
事のほか
厳しいようだが
……



なんとか
凌いで行けそう
かね？

は……

……いや
おからかいに
なられては
困ります
伊藤先生

それでなくても
苦戦しておるの
ですから……









あつ平尾所長
お帰りなさい

札幌での会議は
いかがでしたか？

おう
その事だな
ちよつと
こっち来て
くれたまえ



北防波堤に底を
つける計画な
あれ採用されたぞ

はあー
おめでとう
ございます



それでな
今までの調査結果
から底は
ドーム構造が
いいと思うんだ

ほらっ
こんなのだ

はあ
ドーム
ですか…

カキ
カキ











失ったものは
どうやって
取りもどす？

立派な仕事を
してみせるしか
ないだろう!!
違うか!?



今が
その時なんだよ
土谷君!!

やる前から
逃げて
どーする!!

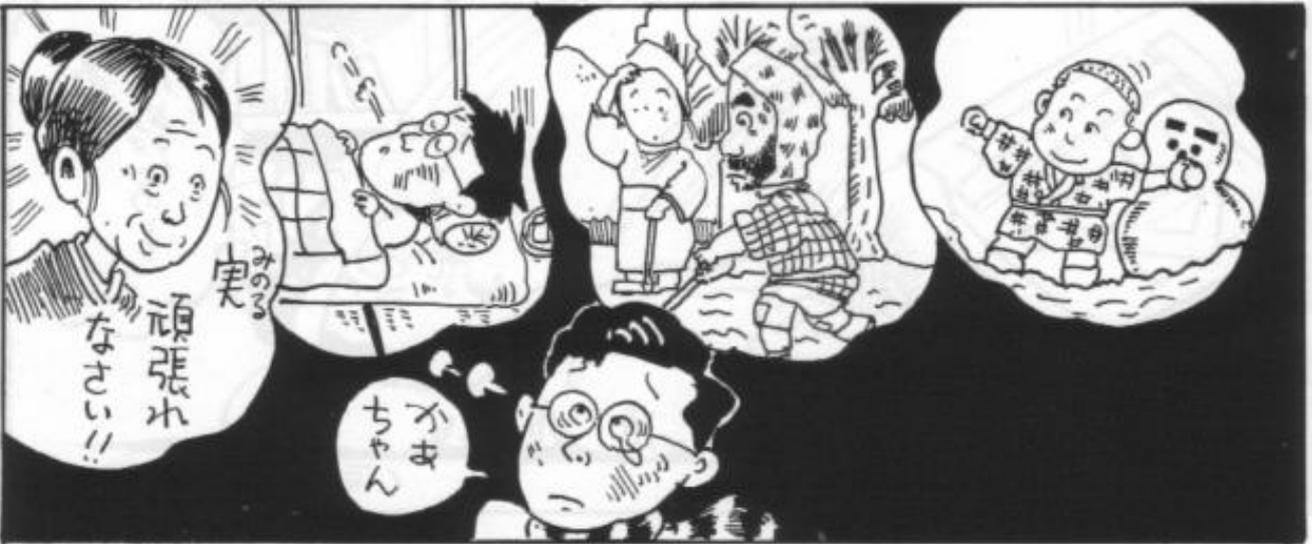
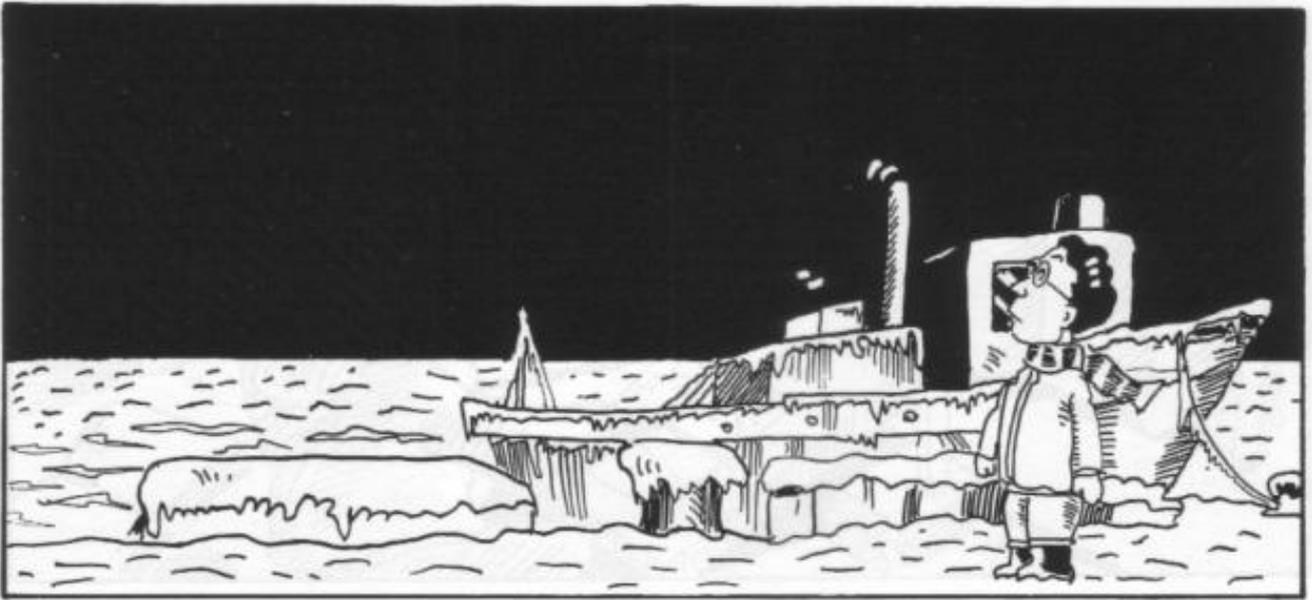


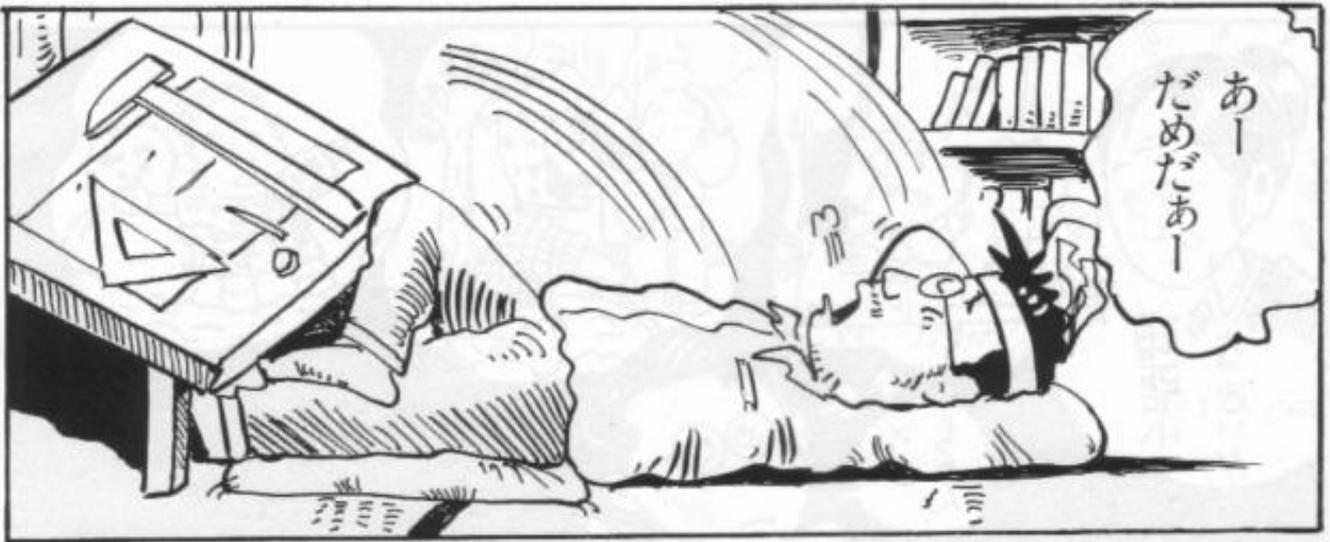
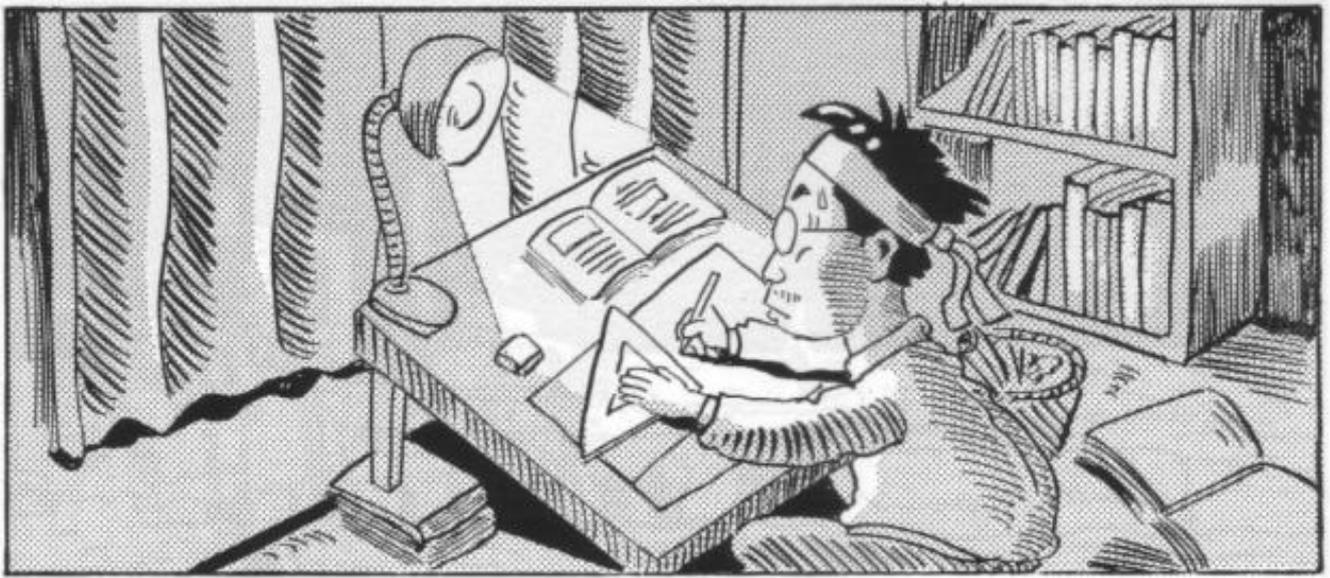
君も
築港の男なら
この機会を
逃すな!

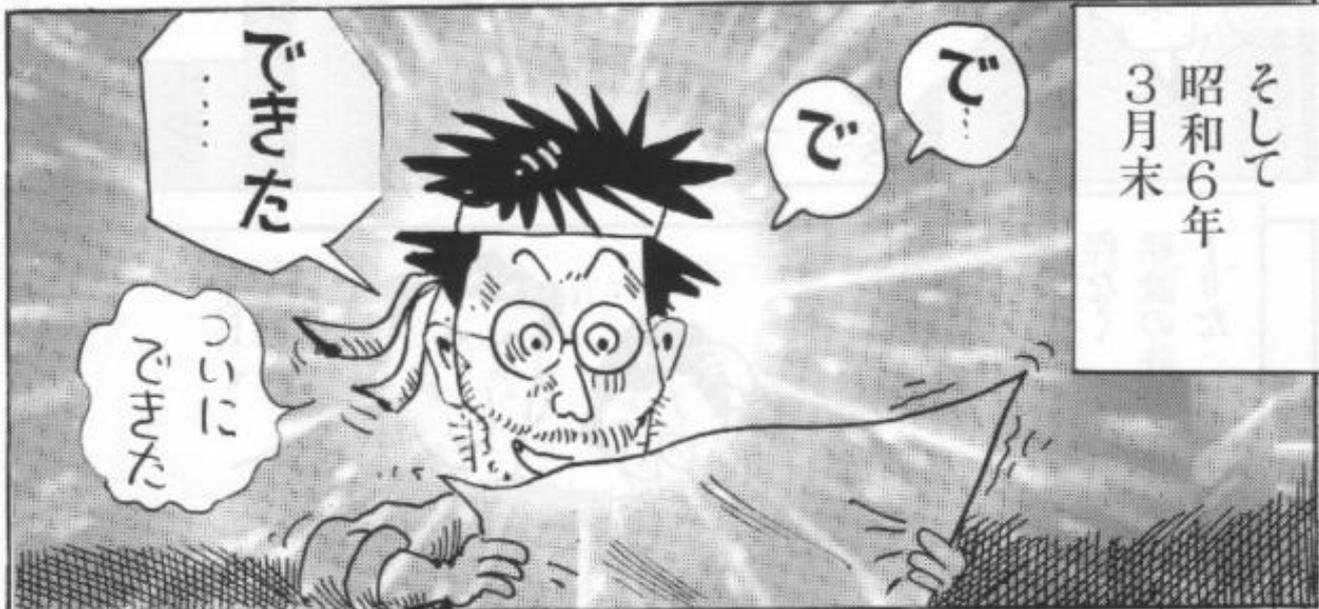
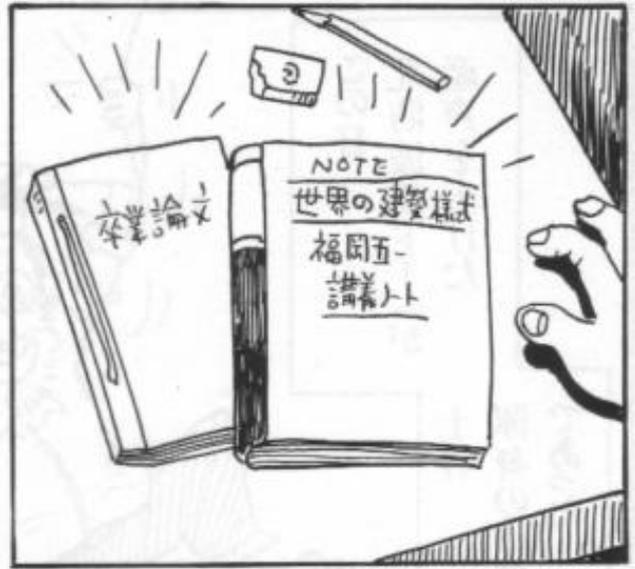
後世に残る
ような仕事を
しろ!!

『ああ、築港の
奴らは良くやって
くれた』...と
世に言わしめる
ように...







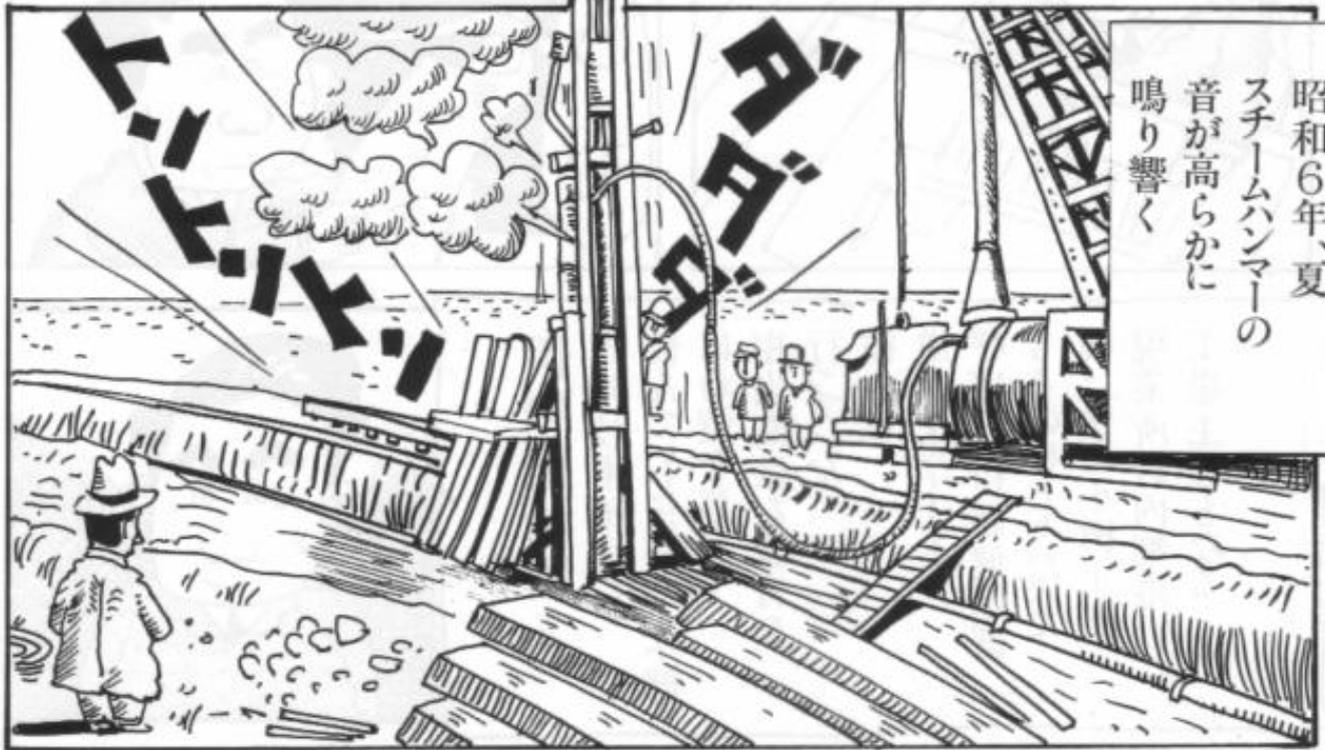
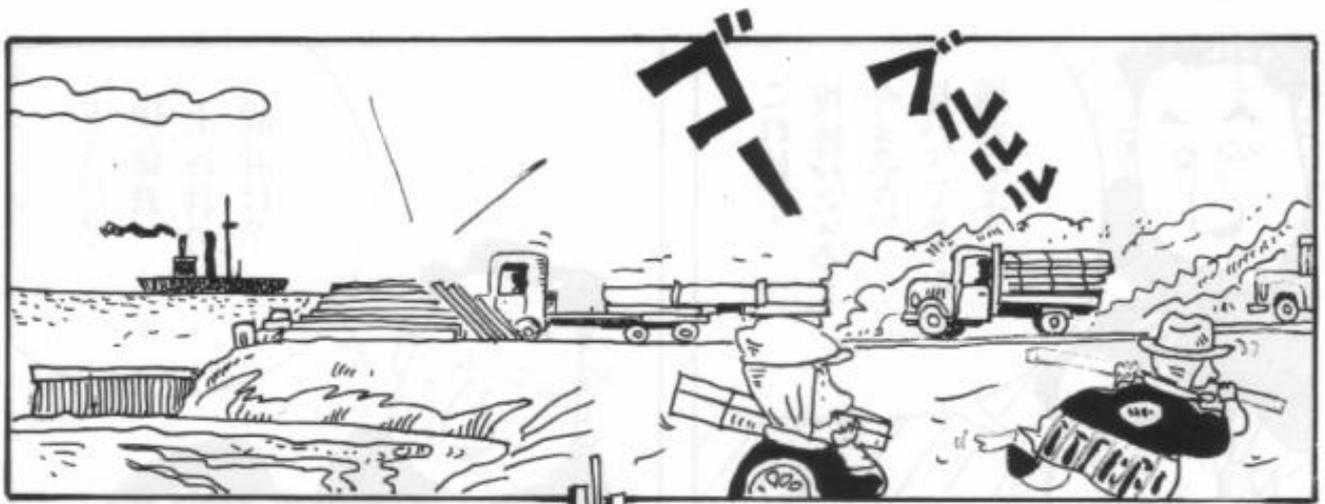






伊藤健治郎
当時技術不足に
悩んでいた道庁土木部
は希望を募り
相当高度な教育を
行っていた
彼らは
道庁工学士と
呼ばれ、伊藤健治郎
もそのひとりだった
彼は後に小樽土木
現業所岩内築港
工場主任となる

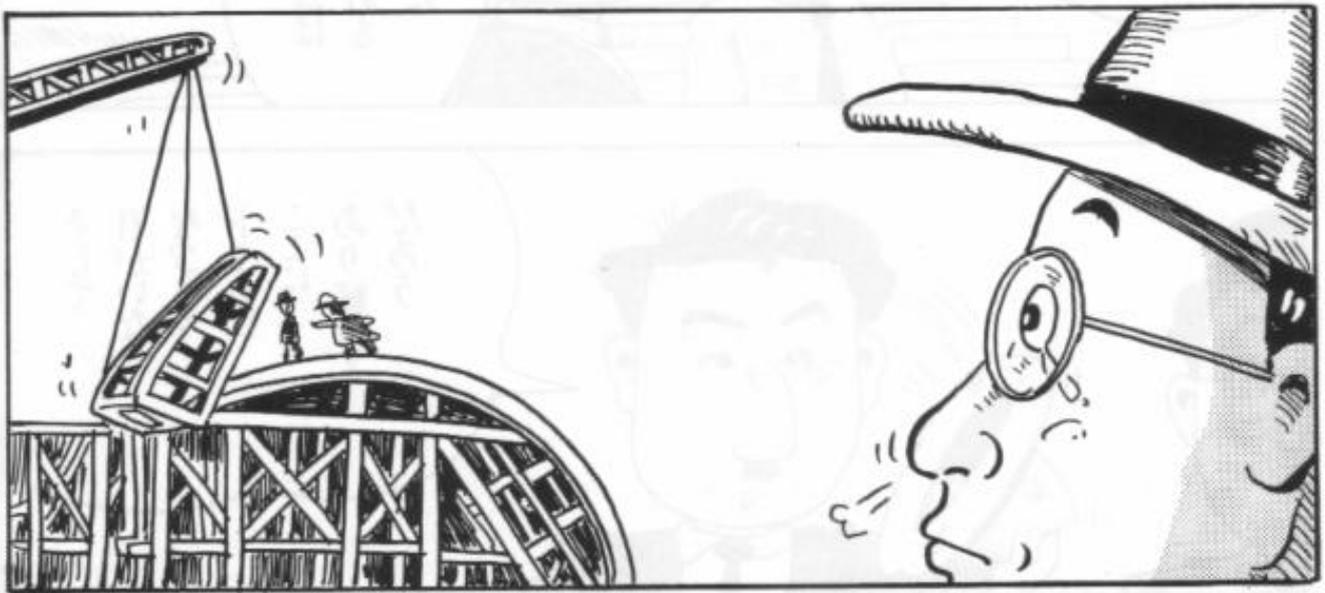
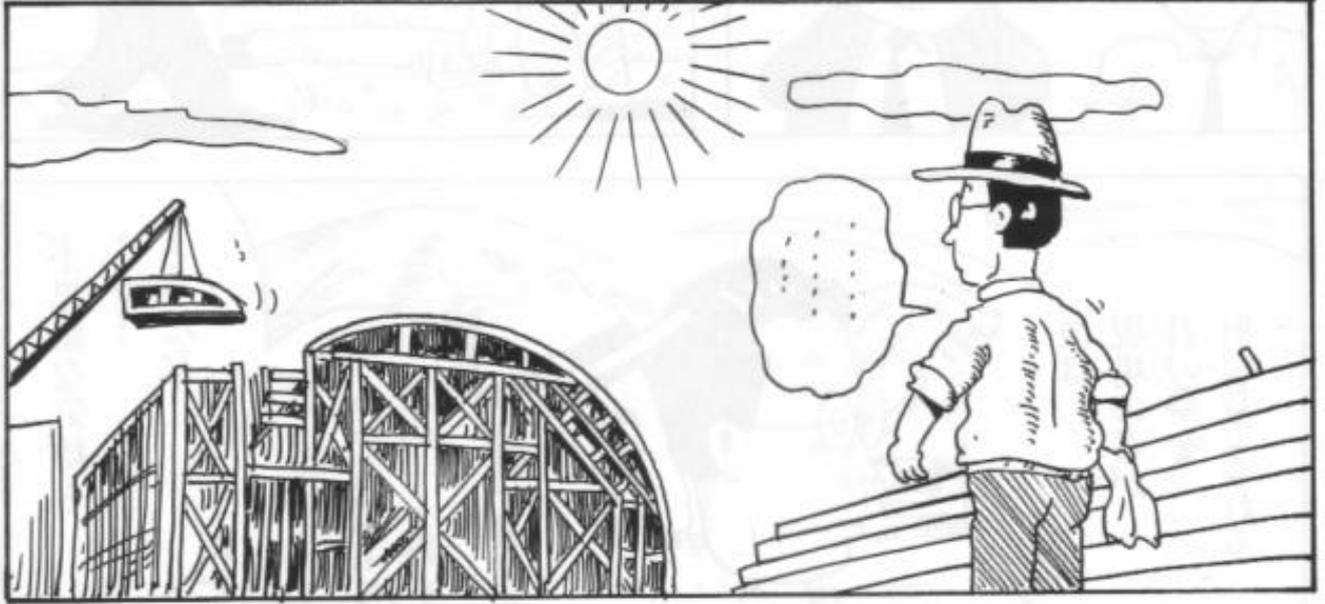
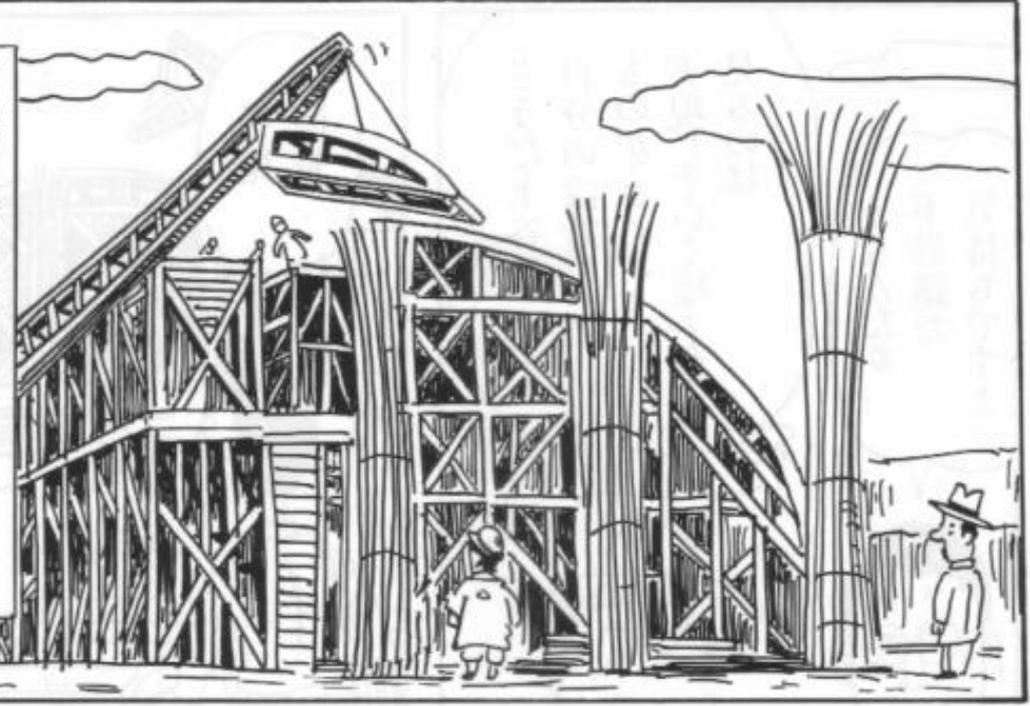


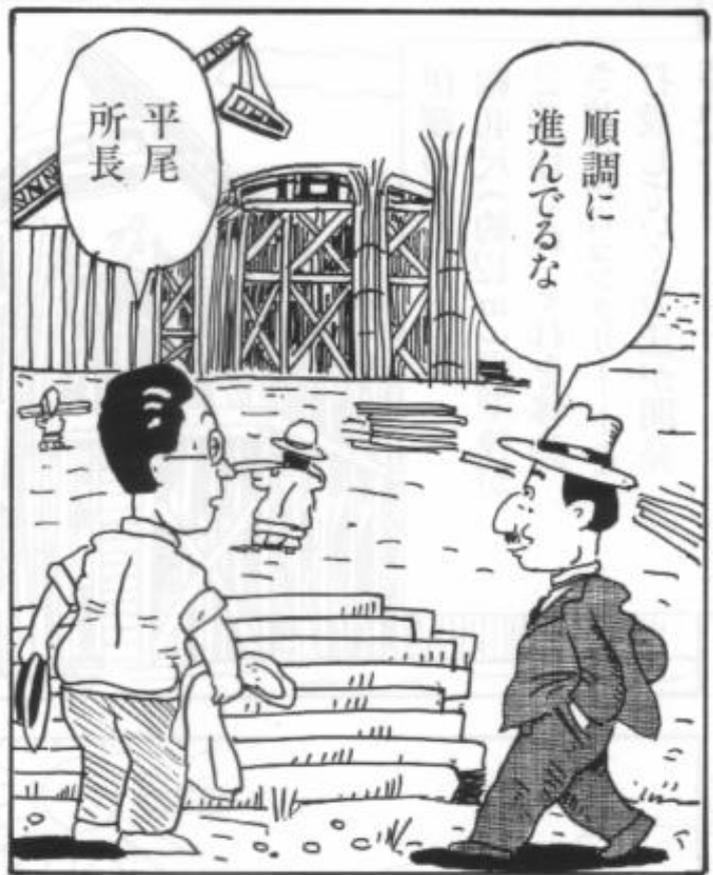


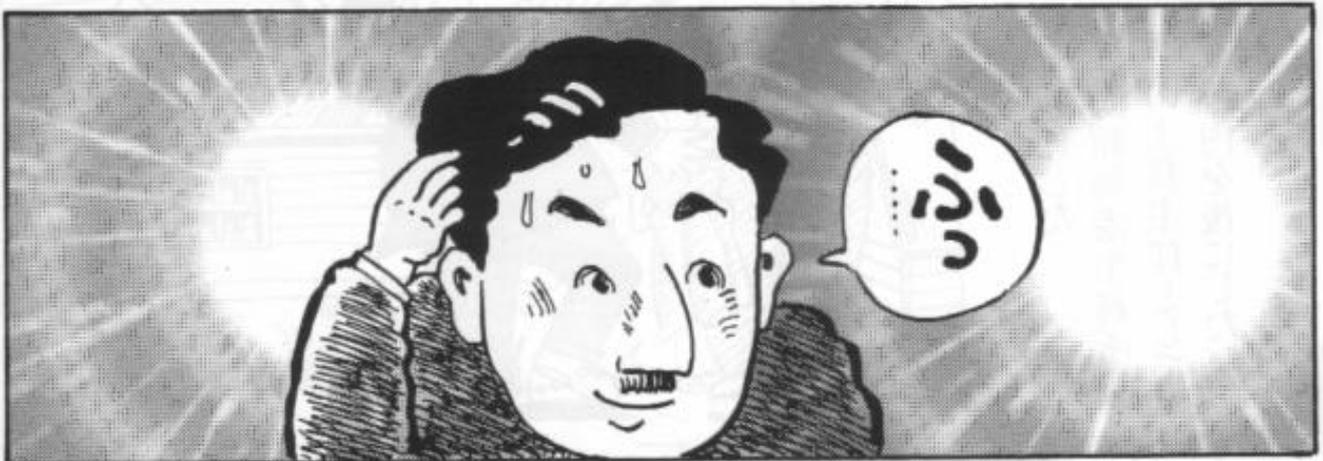
昭和6年、夏
 スチームハンマーの
 音が高らかに
 鳴り響く



伊藤の努力により
幅40尺(約12m)の型枠が
2基作られ、それを移動
させながらコンクリートを
打設していく方法が開発
された



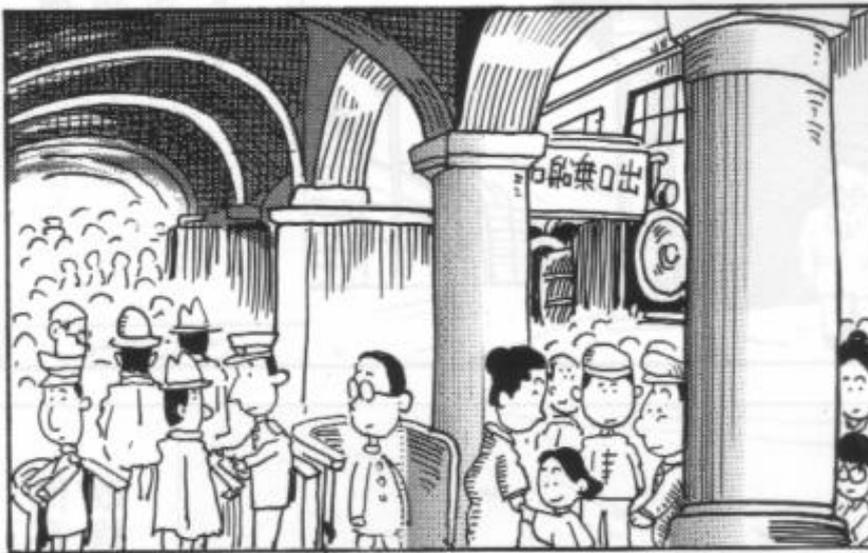




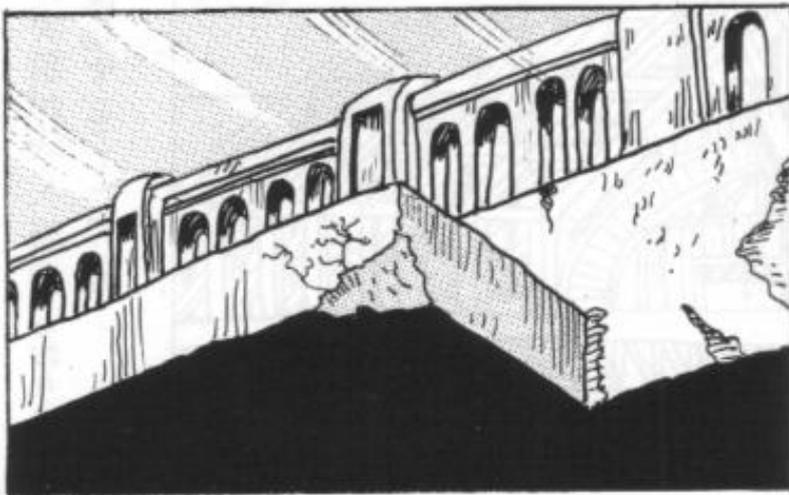




昭和11年
 稚内北防波堤ドーム
 完成



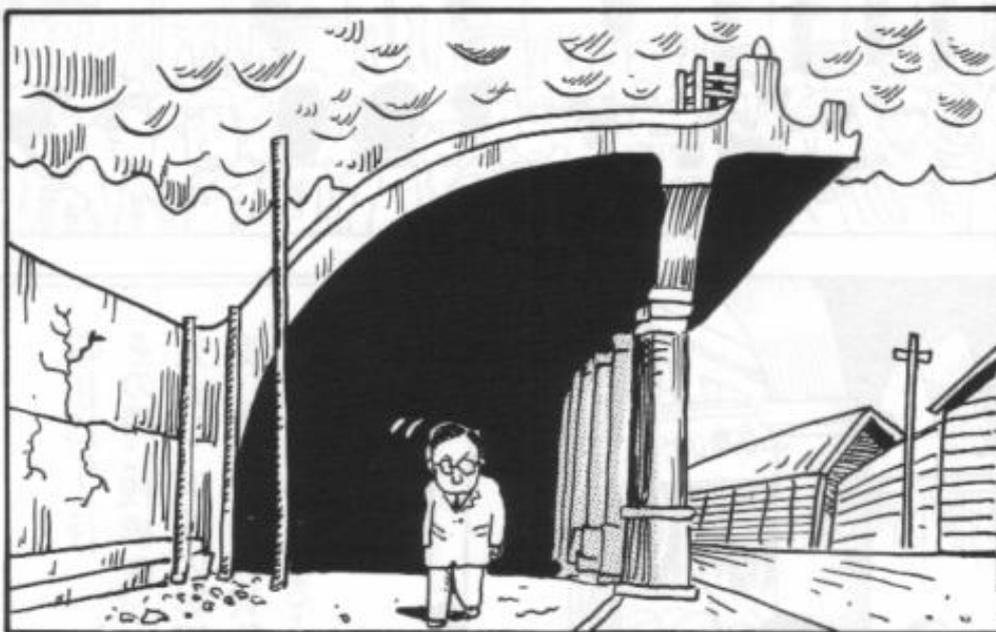
昭和13年には
 その隣に棧橋駅が
 完成し、天候の影響を
 受けず、安全に貨物を
 運ぶことができるよう
 になった



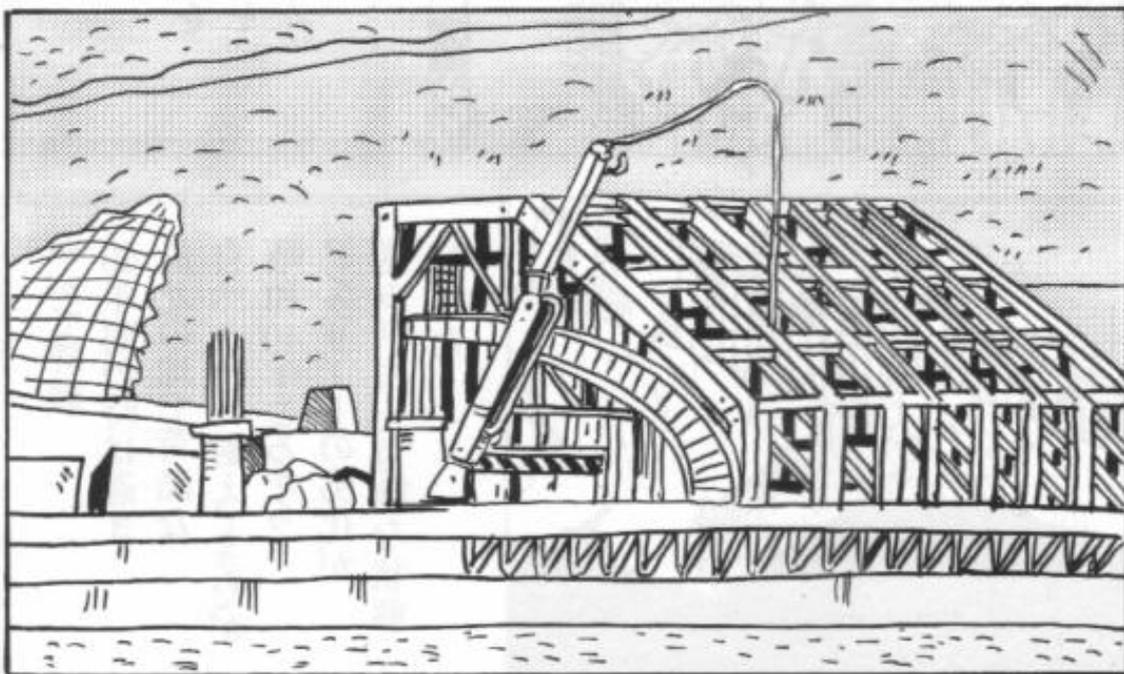
やがて終戦
 40年間の時は過ぎ
 最北の地で苛酷な
 自然条件に耐えてきたが
 昭和40年ころから
 コンクリートの劣化が
 進み利用上危険な状態
 になった



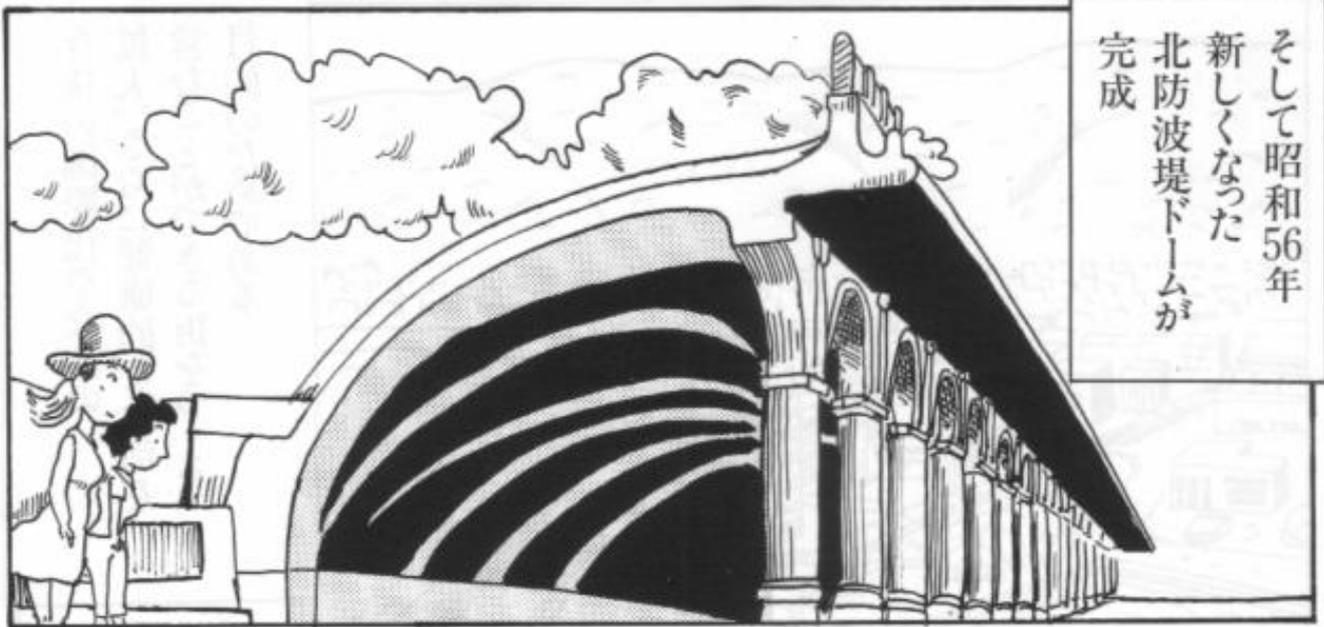
そこでドームの全面改修を
計画。
在りし日の樺太航路を支え、
稚内市発展の基礎を
築いた記念的建造物として
広く知られ…



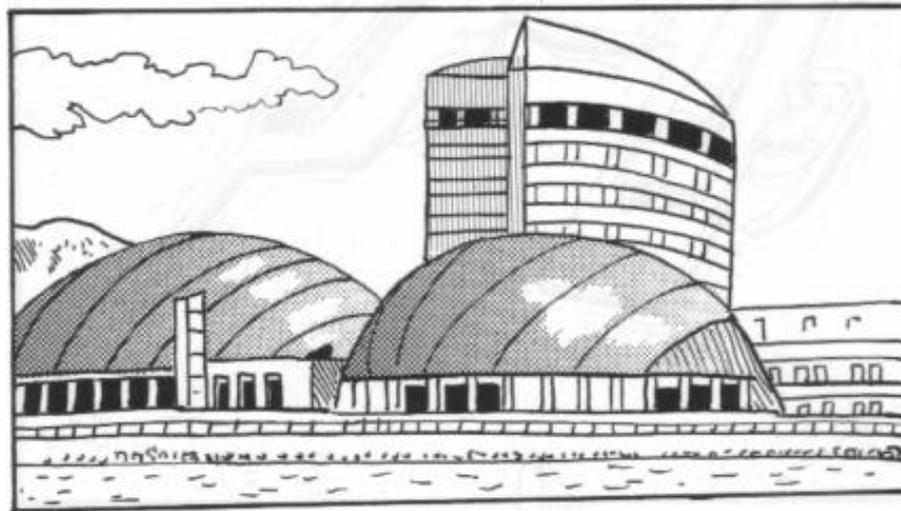
また港湾構造物として
世界的に類をみない
画期的構造で価値が
高いことから…



保存の要請が強く、原型どおりに
改修復元することになる



そして昭和56年
新しくなった
北防波堤ドームが
完成



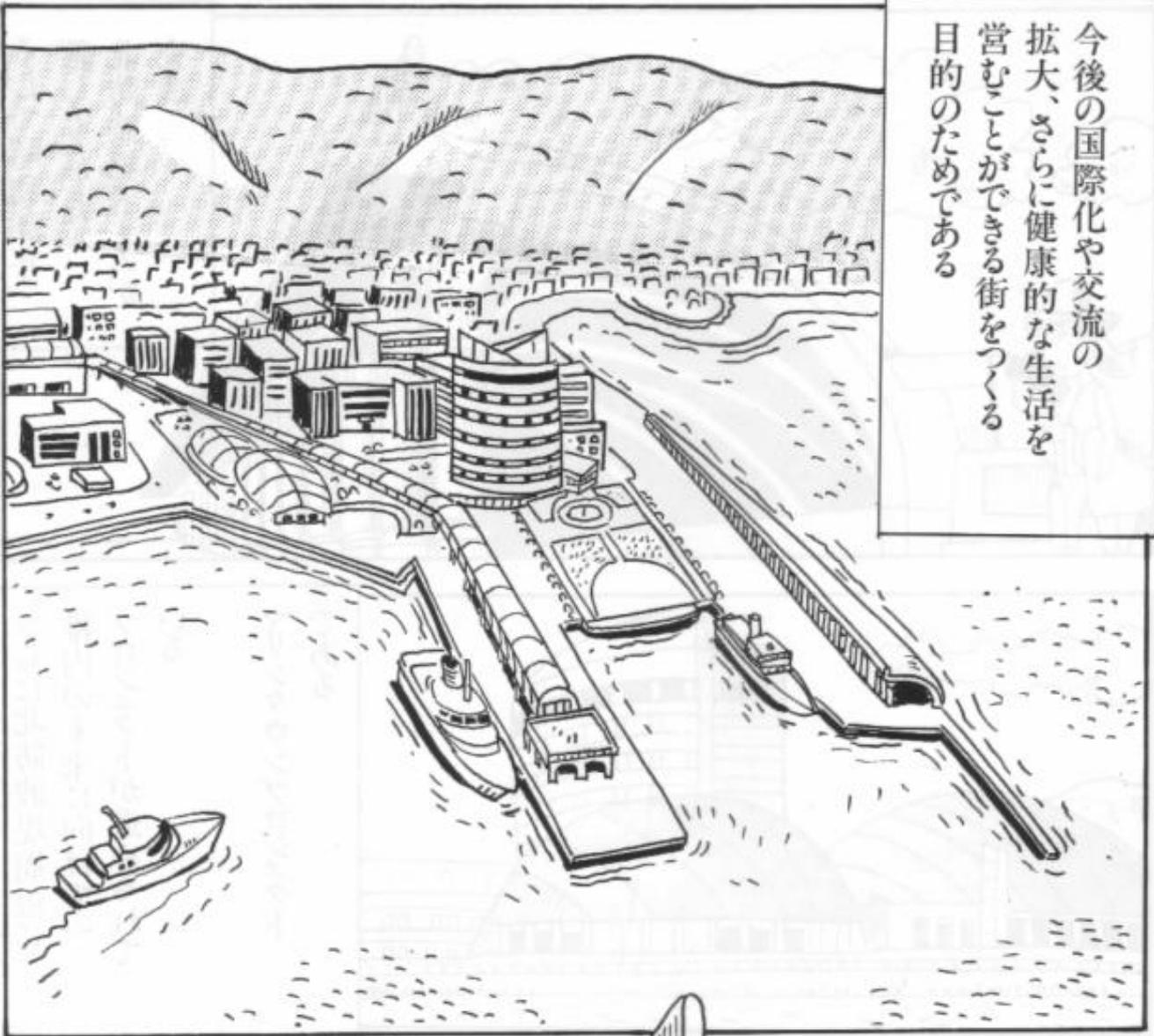
さらに北防波堤周辺に
稚内の未来に向けての
プロジェクトが進められて
いる。
マリナタウンプロジェクト
である



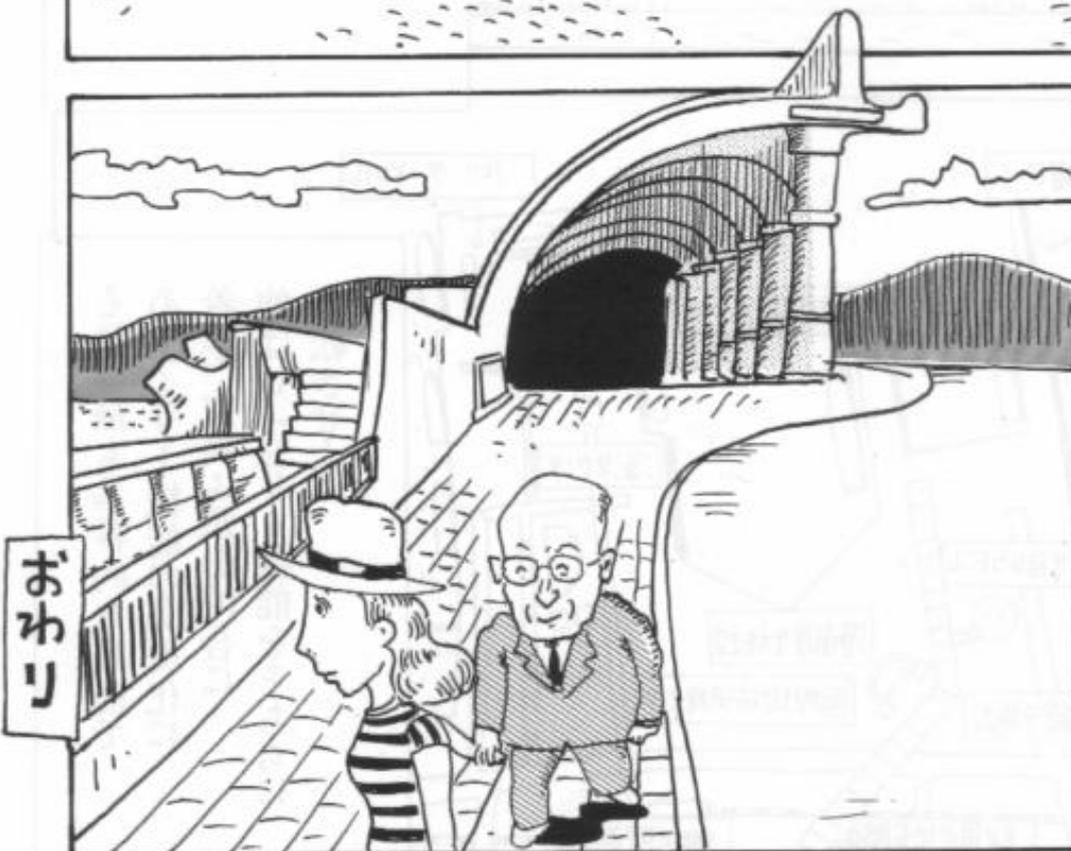
それは最も基幹的な機能で
あるフェリー機能の高度化に
着手、中央ふ頭を沖合に
伸ばし、フェリー機能をそちらに
移転させ…

そして現在の北ふ頭には
人々が集うメモリアル緑地と
演出された水辺を完成させる
ものである

今後の国際化や交流の
拡大、さらに健康的な生活を
営むことができる街をつくる
目的のためである



北防波堤ドームは将来も
稚内のシンボルとして
さらに市民の心の支えと
して生き続けることであろう



おゆり